

平成27年度 全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

本市の子ども達の学力は、教科ごとの平均正答率をみますと、全国平均を下回り、昨年度に比べ小学校、中学校ともに全国との差が広がるなど厳しい状況がみられました。また、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒の割合（以下「下位層の割合」という）は、今年度、小・中学校で増加し、全国との差が広がるなど大きな課題が残りました。

しかし、小学校の理科においては、前回行われた平成24年に比べると全国との差が縮まりました。学校ごとにみますと、すべての教科において全国平均を上回る小学校が2校あるなど、学力向上に向けて成果をあげている学校もみられます。

全国学力・学習状況調査の正答率が低いということは、「習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容」が身に付いていない状態にあることを示しております。さらに下位層の割合が多いということは、「社会で自立して生きていくために必要最低限の学力」を保障する観点からも、特に大きな課題と捉えております。

本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、「理科の勉強が好き」、「理科の授業が分かる」と回答した割合は、全国平均を上回っています。しかし、平日（月～金）に「3時間以上ゲームしている」、「3時間以上携帯、スマートフォンを使っている」小・中学生の割合は、依然として全国平均を上回り、家庭の学習時間とのバランスにおいて大きな課題となっています。

学校質問紙からは、「宿題を出す」、「保護者への啓発」、「教職員間の共通理解」など、家庭学習の定着に向けた学校の取組に大きな改善が見られ、全国平均を上回りました。また、「礼儀よく、落ち着いた授業態度」、「私語が少なく落ち着いている」など、規律正しく、落ち着いて生活・学習に取り組む現状も見られました。さらには、近隣の小中学校と教科の指導内容や指導方法の連携を図り、地域の人や保護者の学校支援ボランティアを積極的に受け入れるなど、学校の教育水準向上に結び付けている実態も読み取れました。本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も併せて総合的に分析し、自校の教育指導の改善を図っていることが、設問の回答から伺えます。

教育委員会としては、今回の結果と合わせ、児童・生徒の受け止めも大切にしながら実態に正対し、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であると考えています。

子ども達の学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30％）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となり、平成24年度は、平成22年度同様の形式で実施されました。

平成25年度以降は、平成19年度～21年度と同様、全国すべての小中学校を対象として実施されました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。

「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成27年 4月21日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校）551名

中学校 8校（市内全校）541名

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

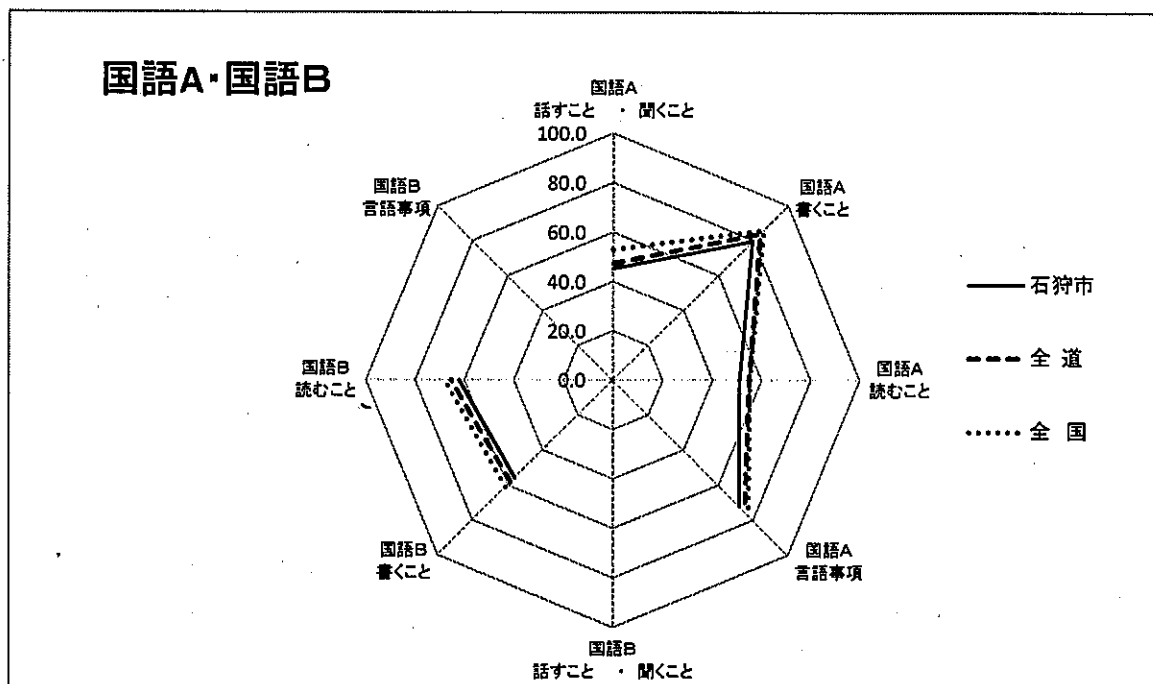
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	9.8問/14問	70.0%	5.9問/ 9問	65.4%
全 道(公立)	9.5問/14問	68.1%	5.7問/ 9問	63.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆				☆			○						☆		○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 国語Aは全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。国語Bについては全道平均とほぼ同様で、全国平均よりも低い結果となりました。
- 国語Bの平均正答率は平成25年度から年々高くなってきています。
- 各設問での無解答率は、A問題で全国(3.6%)・全道(4.0%)より高く石狩市は4.5%でした。B問題では、市内各校の平均が石狩市7.9%で、全道(7.5%)・全国(6.1%)よりも高い結果でした。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・文の中の主語及び主語と述語との照応関係を捉える。
- ・提案の内容に対する聞き方の様子から、聞き方の工夫として適切なものを選択する。
- ・説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことを選択する。
- ・新聞のコラムを読み、文章全体の構成や引用箇所を捉える。
- ・設問数は、14問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国に比べ低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べやや低く、全国に比べ低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道や全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国に比べやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
読むこと	7 作品応募の案内の中から、必要な情報を読み取る	応募のきまりを守っていないものを選択する	72.2%	74.0%	73.9%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む (2)	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)	95.5%	96.3%	96.0%
	1 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く (2)	漢字を書く (鳥のすを観察する)	79.1%	73.8%	76.6%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
読むこと	5 新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える 一	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	49.7%	57.9%	59.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2 文中における主語を捉える 一	文の主語として適切なものを選択する	37.9%	47.8%	53.1%

〈指導の改善にあたって〉

- ・文章を読んで表現の工夫を捉えたり、引用している言葉を的確に捉えることに課題があります。国語の授業の中で、表現の工夫されている文を見つけたり、文や語句を引用する体験を通して理解を深めることが大切です。
- ・文の中の主語を捉えたり、主語と述語の照応関係を捉えることに課題があります。主語と述語は文を書く上でも文章を理解する上でも基礎となるものです。一行文を書いたり、物語文の読解指導などで意識的に主語と述語を取り上げ指導していく必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・目的や意図に応じ、新聞の割り付けをしたり、見出しや記事を書いたりする。
- ・目的に応じ、説明的な文章における中心となる語や文を捉えるとともに、文章と図とを関係付けて読む。
- ・物語の登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えるとともに、登場人物の気持ちの変化について想像しながら音読する。
- ・設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・「書くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国に比べ低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道に比べやや低く、全国に比べ低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	1 2 目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	69.0%	69.0%	70.8%
読むこと	2 イ 目的に応じ、中心となる語や文を捉える	言葉の意味に合う言葉として適切な内容を書き抜く	82.9%	84.3%	86.0%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	1 3 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	30.1%	33.1%	34.7%
書くこと 読むこと	2 3 文章と図とを関連付けて、自分の考えを書く	楽器の分担の決め方について、【楽器分担図】を基にして書く	34.5%	37.7%	41.6%

（指導の改善にあたって）

- ・目的に応じ取材した内容を整理しながら文章（記事）を書くことに課題があります。読み手に伝えたいことをはっきりさせ、調べたことや取材した事柄を整理させながら、実際に新聞づくりを通して理解させていく必要があります。
- ・文章と図とを関連づけて自分の考えを書くことに課題があります。授業において図やグラフと照応させながら文章を理解させ、その都度自分の考えをしっかりと書く指導を繰り返し取り組み定着させていく必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の61.8%、全国の61.1%に対して石狩市は52.6%で、全道より9.2ポイント、全国より9.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.3%、全国の92.0%に対して石狩市は89.9%で、全道より3.0ポイント、全国より2.7ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.2%、全国の82.0%に対して石狩市は77.3%で、全道より3.9ポイント、全国より4.7ポイント低くなっています。

□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	12.0問/16問	75.2%	5.9問/13問	45.0%
全 道(公立)	11.6問/16問	72.3%	5.5問/13問	42.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
				☆			○						☆			○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲

高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内

やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内

ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内

同様 … ±1ポイント未満の範囲内

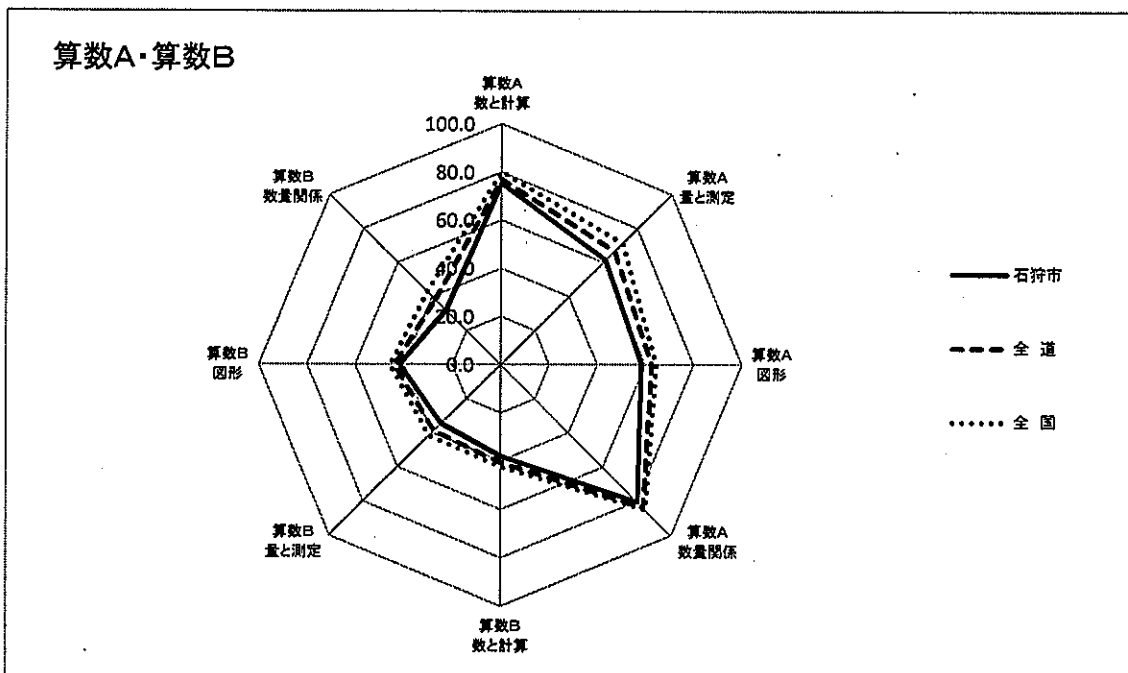
ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内

やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内

低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内

相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 算数 領域別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 市内各校の正答率は、全道・全国との差が平成26年度よりも広がりました。
- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の中で、A問題では「量と測定」が、B問題では「数量関係」が全道・全国との差が大きい結果となりました。
- 無解答率については、A問題で全国(1.8%)・全道(2.5%)より高く石狩市3.1%でした。B問題では、石狩市12.6%で、全道(11.6%)・全国(9.1%)よりも高い結果でした。
- 問題形式の正答率では、B問題で選択式が短答式・記述式に比べ全道・全国と同様の結果でした。

算数 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・計算の結果のおよその大きさとしてふさわしい数値を選ぶ。
- ・ 180° より大きい角の大きさを求める。
- ・示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選ぶ。
- ・示されている事柄を読み取ることができるグラフを選ぶ。
- ・設問数は16問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国と比べるとやや低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道よりも低く、全国と比べると相当低く課題があります。
- ・「図形」の領域は、全道よりやや低く、全国と比べ低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	² (1) 繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	$28 + 72$ を計算する	99.1%	98.2%	98.2%
量と測定	³ 日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	69.5%	71.7%	74.8%
数量関係	⁷ グラフに表されている事柄を読み取ることができる	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	78.2%	80.9%	81.8%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	² (4) 除数が整数である場合の分数の除法を計算することができる	$5 \div 6 \div 7$ を計算する	64.8%	72.7%	84.2%
量と測定	⁴ (2) 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる	分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める	43.6%	51.4%	58.0%
図 形	⁵ (1) 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	43.9%	48.9%	50.6%

（指導の改善にあたって）

- ・「数と計算」では、末尾の位の異なる小数の足し算や引き算に課題が見られます。小数の仕組みや数の相対的な大きさに着目して計算の仕方を考えたり、結果を振り返って確かめたりできるように指導する必要があります。計算に慣れるため繰り返し学習する必要があります。
- ・「量と測定」では、 180° より大きい角の大きさを求めることに課題が見られます。授業では、角の大きさの見当をつけ、分度器を用いて確実に角度が測定できるように繰り返し指導する必要があります。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・日常の事象の解決に図形を見だし、その性質を記述する。
- ・基準量、比較量、割合の関係を基に、示された求め方の誤りを指摘し、正しい求め方を記述する。
- ・図形の性質を基に、示された角の大きさが 30° になる理由を記述する。
- ・概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、その判断の理由を記述する。
- ・設問数は13問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道よりやや低く、全国と比べかなり低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道より低く、全国と比べ相当低く課題があります。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
図形	1 (2) 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	58.5%	55.4%	54.6%
数と計算	4 (1) 四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	50.0%	49.9%	52.6%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数量関係	2 (2) 示された情報から基準量を求める場面を捉え比較量と割合から基準量を求めることができる	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	2.7%	8.9%	13.1%
数と計算	4 (3) 概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	18.0%	19.8%	22.3%
量と測定 図 形	5 (1) 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	10.5%	12.2%	12.5%

（指導の改善にあたって）

- ・比較量と割合から基準量を求めることに課題があります。問題を丁寧に読み解き、図や数直線に表して分かりやすく捉えるように指導する必要があります。割合が日常生活の様々な場で用いられていることを気付かせ、理解させていく必要があります。
- ・条件を変更した場で示された面積を求めることに課題があります。図形の問題では図形の特徴をよく理解し、その上で公式により確実に計算して求めることができるようにすることが大切です。図形をよく観察し、その位置関係に着目し課題解決ができるように指導していく必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の64.5%、全国の66.6%に対して石狩市は58.5%で、全道より6.0ポイント、全国より8.1ポイント低くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.1%、全国の93.1%に対して石狩市は91.1%で、全道より1.0ポイント、全国より2.0ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.7%、全国の81.0%に対して石狩市は75.1%で、全道より2.6ポイント、全国より5.9ポイント低くなっています。

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校理科】

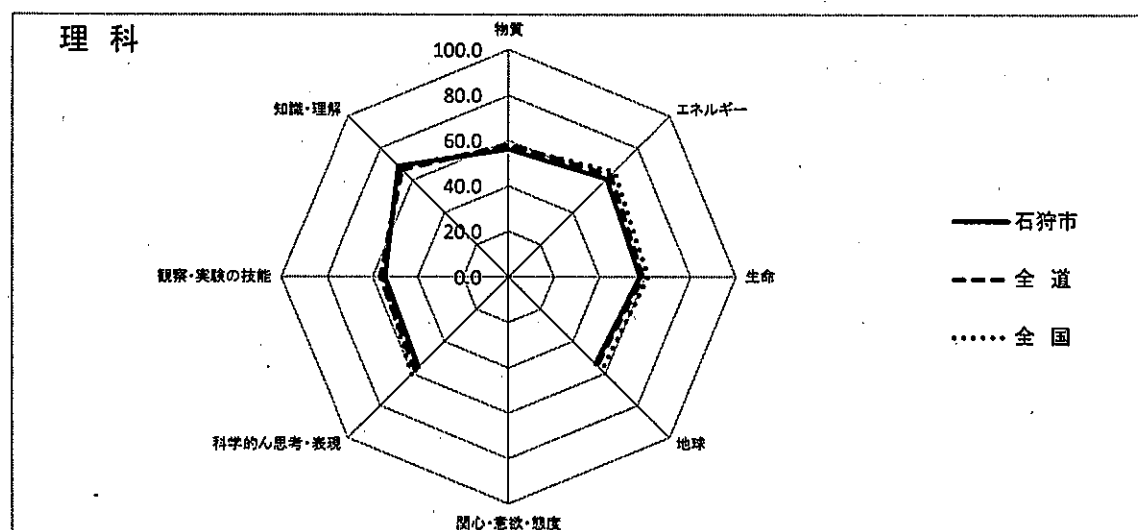
□ 正答率の状況 □

	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	14.6問/24問	60.8%
全 道(公立)	14.2問/24問	59.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上)	同様	ほぼ同様(下)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○									
全 国 : ☆				☆		○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲
 高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内
 やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内
 同 様 … ±1ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
 やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
 低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
 相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 理科 領域別正答率比較グラフ □



□ 理科の概要 □

- 市内各校の平均正答率は全道平均・全国平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。平成24年度と比べると全国平均との差が若干縮まりました。
- 領域別正答率では、4領域(物質・エネルギー・生命・地球)とも全道平均と同様又はほぼ同様の傾向にあります。
- 無解答率については、市内各校の平均が3.6%で、全道(3.3%)・全国(3.2%)と同様の傾向になりました。

理科

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうか、活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・メダカの雌雄を見分ける方法を理解する。
- ・顕微鏡の適切な操作方法を身に付ける。
- ・水蒸気は水が気体になったものであることを理解する。
- ・月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解する。
- ・植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述する。
- ・打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析する。
- ・水の温まり方について、予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想する。
- ・電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善する。

・設問数は24問です。

【各領域の傾向】

- ・「物質」の領域は、全道・全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「エネルギー」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「地球」の領域は、全道と同様で、全国と比べやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
エネ ル ギ ー	1 (5)ア 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる。	電磁石の働きを利用した振り子が、左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	71.5%	70.5%	72.7%
生 命	2 (1) メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	メダカのおすとめすを見分けるための観察する部分を選ぶ	84.0%	74.9%	78.0%
物 質	3 (4) メスシリンダーの名称を理解している	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く	84.0%	82.7%	70.7%
地 球	4 (5) 水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	61.3%	56.8%	58.5%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
生 命	2 (3) 顕微鏡の名称を理解している	示された器具（顕微鏡）の名称を書く	48.9%	58.5%	61.6%
物 質	3 (6) 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	16.2%	24.3%	28.9%
地 球	4 (2) 月是一日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることは理解している	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	48.5%	52.6%	56.1%

（指導の改善にあたって）

・顕微鏡の名称や操作方法の理解に課題が見られます。顕微鏡を操作できるようになるには、顕微鏡に触れる機会を多くすることが大切です。授業はもとより理科室や教室などに常時顕微鏡を置き、いつでも児童が使用できる環境づくりが必要です。

・温度の変化に伴って変わる物質の析出する量をグラフを基に考察し分析することに課題があります。物が水に溶ける量と温度に関係があることを理解させるには予想や考察を数値と結びつけて考えさせたり、グラフを基に溶ける量と温度の関係を考えさせたりしながら、関心をもって実験に取り組みさせることが大切です。実験ではじっくり観察場面を設定し、実感をもって理解させる必要があります。

・月の動きに関する理解に課題があります。月の観察には、複数回観察する機会を設定し、観察を通して身に付け理解させることが大切です。観察では丁寧に記録することの大切さを指導し、記録をもとに話し合う機会を持ちながら、理解をさせる必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の85.6%、全国の83.5%に対して石狩市は84.5%で、全道より1.0ポイント高く、全国より1.1ポイント低くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の86.3%、全国の86.9%に対して石狩市は84.0%で、全道より2.3ポイント、全国より2.9ポイント低くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の88.9%、全国の87.9%に対して石狩市は88.3%で、全道より0.6ポイント低く、全国より0.4ポイント高くなっています。

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

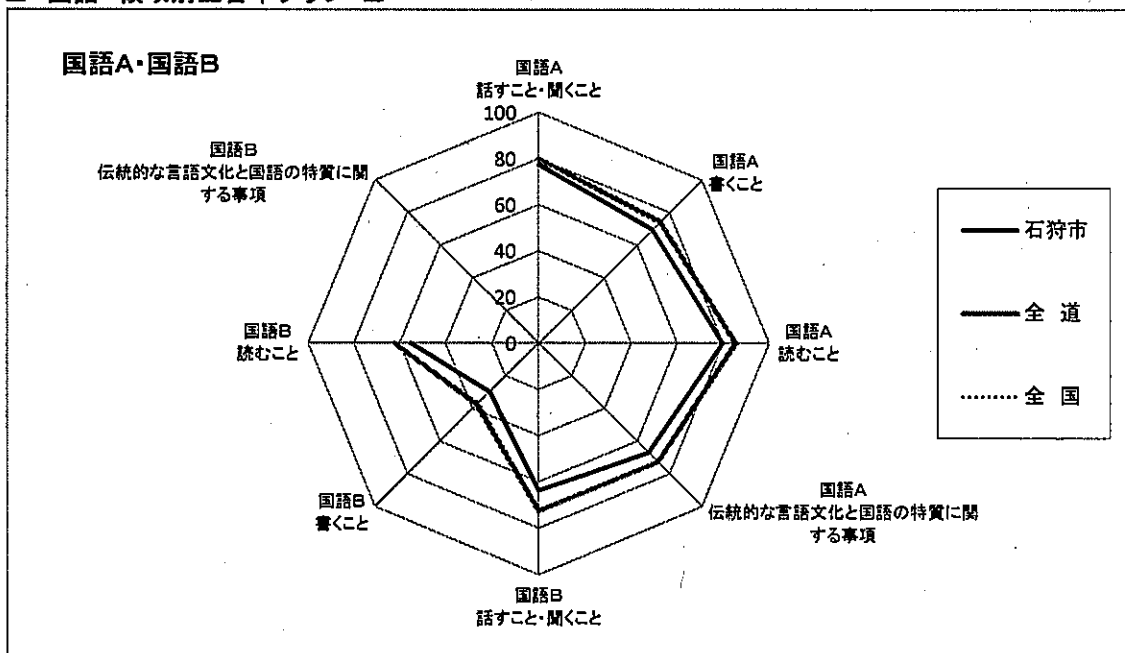
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	25.0問/33問	75.8%	5.9問/ 9問	65.8%
全 道(公立)	25.0問/33問	75.8%	5.9問/ 9問	65.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○					☆			○						☆				○
全 国 ; ☆																		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 相手の反応を踏まえて話し方を工夫する力は、ほぼ定着しています。
- 漢字の読みについては、定着が見られます。
- 適切な表現を選択したり、効果的な文章を書くことが課題です。
- 漢字を正しく書いたり、適切な品詞の選択が課題です。
- 適切な情報を選択して、それを根拠に自らの考えを書くことが課題であり、無回答率も高くなっています。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技術が身に付いているかどうかをみる、以下に示す内容の問題で構成されています。
- ・スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する。
 - ・意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する。
 - ・「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして、適切なものを選択する。
 - ・漫画の言葉に対応する部分として適切なものを、古典の文章の中から選択する。
 - ・設問数は33問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、全道・全国より低く、漢字は読めても書けない傾向が見られます。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 — 相手の反応を踏まえて話す	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択	92.8%	93.2%	93.0%
書くこと	2 — 意見を支える根拠の明確さについて助言する	意見文に対して出された指摘の理由として、適切なものを選択	76.7%	79.4%	79.8%
読むこと	5 — 文章から適切な情報を得て、考えをまとめる	「なぜ、排水管はS字形になっているのか」という問いに対する答えとして適切なものを選択	89.6%	93.1%	93.6%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9 1 漢字を読む	詳細(ショウサイ)に述べる	80.9%	80.3%	78.2%
	9 五 毛筆を用いて、楷書で字を書く	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択	84.4%	84.4%	85.9%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 二 聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	「成否」を分かりやすい表現に直す	61.3%	65.3%	65.0%
書くこと	4 — 伝えたい事実を明確に書く	棒グラフの網掛け部の変化の内容を適切書く	58.7%	66.5%	67.6%
読むこと	6 二 表現の特徴を捉える	文章の説明で、適切なものを選択	79.8%	86.6%	87.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9 — 3 文脈に即して漢字を正しく書く	アマ(余)ったお金を貯金する	54.1%	67.4%	70.9%
	9 四 ② 単語の類別について理解する	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択	48.1%	58.8%	62.3%

〈指導の改善にあたって〉

- ・聞いただけでは意味が分かりにくい言葉や日常生活で使うことが少ない言葉などについては、聞き手の反応を踏まえて分かりやすい言葉に換えたり、説明を加えたりするような指導が必要があります。
- ・読み取った情報が正しいかどうかを確かめ、読み手に正確に伝わる言葉を選択して記述する指導をする必要があります。
- ・説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の特徴捉え、その工夫や効果のついて自分の考えを持たせるよう指導する必要があります。
- ・単語を正しく類別するには、文法的な知識に加え具体的な文章を通して考えさせる指導をする必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技術を活用できるかどうかをみる、以下に示す内容の問題で構成されています。
- ・演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く。
 - ・資料を参考にして未来の日本の社会を予想し、その会社にどのように関わっていきたいかを自分の考えを書く。
 - ・文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。
 - ・設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・出題された全ての領域(三領域)で、全道・全国より相当低く、課題があります。

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1二 聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	「成否」を分かりやすい表現に直す	61.3%	65.3%	65.0%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1二 効果的な資料を作成し、活用して話す	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	79.1%	87.7%	87.3%
書くこと	1三 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	44.1%	55.8%	56.2%
読むこと	2一 目的に応じて文章を要約する	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄にあてはまる言葉として適切なものを選択する	72.2%	80.9%	82.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・より分かりやすく伝える資料を作成する際は、提示する意図を明確にし、その効果を考えながら作成するよう指導する必要があります。
- ・どのような資料を、どのタイミングで提示するのか、事前に使用する目的などを確認して考え、発表後に、その効果を確かめる活動をするよう指導する必要があります。
- ・説明的な文章の要旨を捉える際には、キーワードなどに着目させながら文章を読ませ、段落相互の関係や文章の構成を確認させる指導が必要です。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 64.2%、全国の 60.5%に対して石狩市は58.5%で、全道に比べ 5.7ポイント、全国に比べて2.0ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 89.3%、全国の89.9%に対して石狩市は 85.4%で、全道に比べ3.9ポイント、全国に比べ4.5ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 76.4%、全国の 74.3% に対して石狩市は 67.5%と、全道に比べ 8.9ポイント、全国に比べ 6.8ポイント低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 71.7%、全国の 67.9% に対して石狩市は68.6%で、全道に比べ 3.1ポイント低く、全国に比べ0.7ポイント高くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとめりと内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的な回答率は、いずれも、全道・全国より低くなっています。

平成27年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

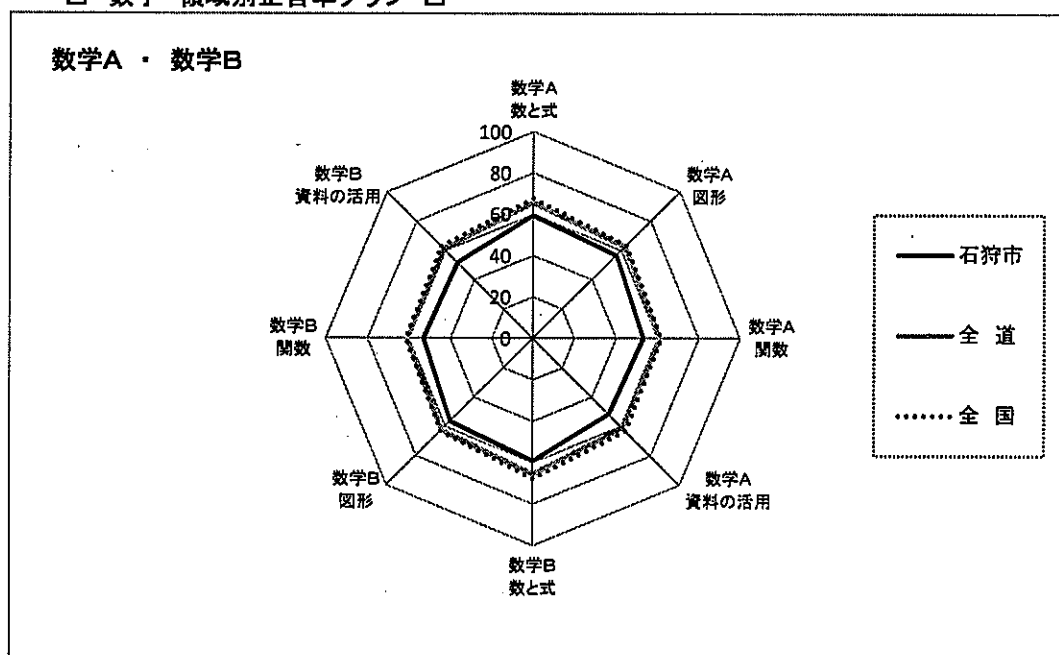
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	23.2問／36問	64.4%	6.2問／15問	41.6%
全 道(公立)	22.7問／36問	63.0%	6.0問／15問	39.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い (上位)	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い (上位)	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全 国 ; ☆				☆				○					☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることについては、改善が見られます。
- 確率の意味を理解することに、課題があります。
- 引き続き無回答の割合が高く、課題が継続しています。
- [数学]に対する生徒の意識の中で、肯定的な回答が昨年度を下回り、日常の指導の改善が求められます。

数学 A（主として「知識」に関する問題）

- 基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。
- ・正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。
 - ・一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く。
 - ・平行移動した図をかく。
 - ・反比例のグラフや2つの数量の関係のグラフの読み取り。
 - ・確率の意味を理解している。
 - ・設問数は36問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」の領域は、全道より低く、全国より相当低く課題があります。
- ・「図形」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国より相当低く課題があります。
- ・「資料の活用」の領域は、全道・全国より相当低く課題があります。

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 2 効果的な資料を作成し、 活用して話す	フリップを作成する際に取り入れ れたポイントとして適切なもの を選択する	79.1%	87.7%	87.3%

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
図形	4 (1) 垂線の作図が図形の対称性を 基に行われていることを 理解している	垂線の作図で利用されている図 形の性質を選ぶ	56.1%	57.8%	59.1%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	2 (3) 等式を目的に応じて変形 することができる	等式 $2x - y = 5$ を y につい て解く	48.7%	60.1%	64.2%
	3 (2) 小数を含む一元一次方程 式を解くことができる	一元一次方程式 $1.2x - 6 = 0.5x + 1$ を解く	61.1%	72.2%	73.8%
図形	7 (3) 平行四辺形になるための 条件を理解している	与えられた方法で作図された四 角形が、いつでも平行四辺形に なることの根拠となる事柄を選 ぶ	36.3%	47.0%	48.1%
関数	10 (2) 与えられた比例の式につ いて、そのグラフ上の点 の x 座標を基に、 y 座標 を求めることができる	比例 $y = 2x$ のグラフ上の点A の x 座標が3のときの y を座標 を求める	51.3%	62.1%	64.9%
資料の 活用	15 (2) 多数回の試行の結果から 得られる確率の意味を理 解している	さいころを投げるときの確立に ついて正しい記述を選ぶ	38.0%	52.6%	55.4%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
関数	10 (3) 与えられた比例のグラフ から、 x の変域に対応す る y の変域を求めること ができる	比例のグラフから、 x の変域に 対応する y の変域を求める	35.0%	34.1%	48.5%	19.1%	49.3%	17.2%

〈指導の改善にあたって〉

- ・等式の変形については、特定の文字について説くことの意味を理解しながら確実に処理できるよう指導する必要があります。
- ・一次方程式を解く際に、方程式を解く過程を振り返ったり、その結果を確かめたりする活動を通して、正しく解を求めることができるよう指導する必要があります。
- ・グラフの式を満たす値の組を求める活動を取り入れ、グラフ上の点の座標を求めることができるよう指導する必要があります。
- ・ある試行を多数回繰り返したとき、ある事柄の起こる回数の割合が一定の値に近づくことを、観察や実験などを通して捉える活動を取り入れ、確率の意味を実感を伴って理解できるよう指導する必要があります。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかみる、次に示す問題で構成されています。

- ・数量関係を表す式を用いて、投影画面の大きさの適切な変え方を指摘し、その理由を説明する。
- ・連続する5つの整数の和について、予想した事柄を説明する。
- ・目的に応じたポップアップカードを作るための山折の端点の位置を決める方法を説明する。
- ・グラフの形に着目し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。
- ・設問数は15問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」「図形」「資料の活用」の領域では、全道・全国より相当低く課題があります。
- ・「関数」の領域では、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・無答率が高い傾向が続いていることも、課題といえます。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
関数	1 (2) 処理した情報の結果を、事象に即して解釈できる	投影画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投影距離を選ぶ	39.4%	35.8%	35.1%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	2 (3) 予想した事柄の説明ができる	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	47.9%	60.5%	63.8%
図形	4 (2) 条件を変えた場合の証明ができる	正方形を平行四辺形に変えても、対応する辺が等しくなることの証明	34.9%	46.3%	49.6%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石 狩 市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
図形	3 (2) 問題解決の方法を図形の性質を用いて説明できる	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように、点Fの位置を決める方法を説明	12.9%	69.5%	19.2%	54.7%	21.2%	48.2%

〈指導の改善にあたって〉

・問題の条件を変えて見出した事柄について、その前提と結論の両方を明確にして表現できるよう指導する必要があります。

・証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるよう指導する必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の53.8%、全国の56.0%に対して石狩市は、47.4%で全道より6.4ポイント、全国より8.6ポイント低くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.8%、全国の82.6%に対して石狩市は74.9%で、全道より5.9ポイント、全国より7.7ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の70.0%、全国の71.6%に対して石狩市は64.0%と、全道より6.0ポイント、全国より7.6ポイント低くなっています。
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の90.8%、全国の91.5%に対して石狩市は85.8%で、全道より5.0ポイント、全国より5.7ポイント低くなっています。
- ・「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は、それらの全ての質問事項において、全道・全国より下回っています。

平成27年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校理科】

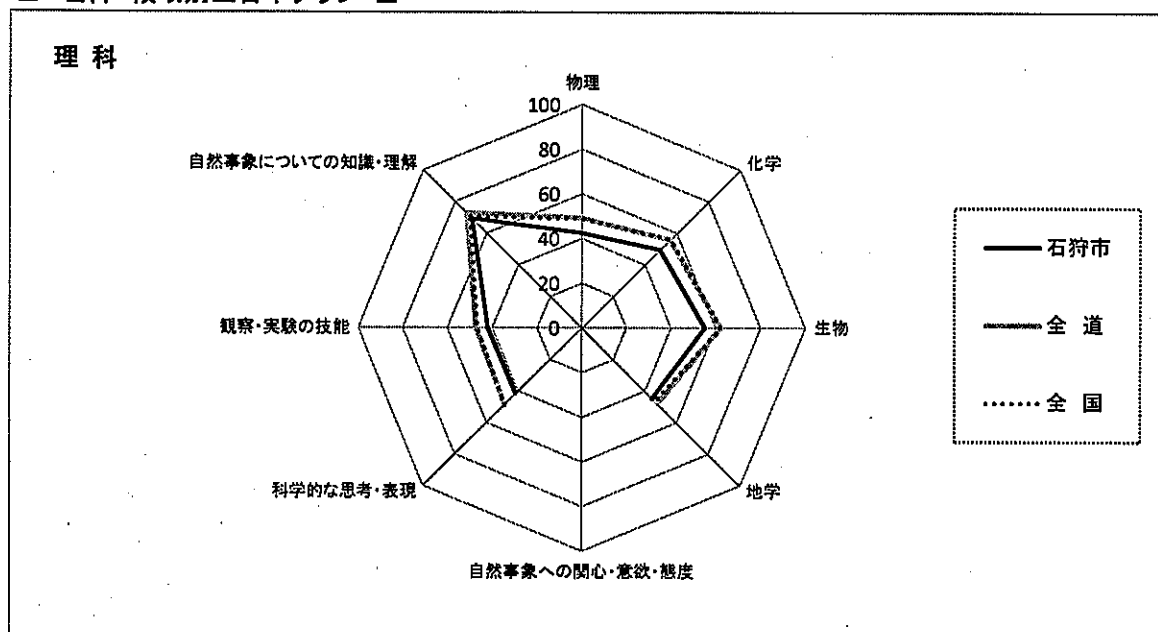
□ 正答率の状況 □

	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	13.3問/25問	53.0%
全 道(公立)	13.3問/25問	53.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上)	同様	ほぼ同様(下)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○									
全 国 : ☆					☆			○	

相当高い … 7ポイント以上の範囲
 高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内
 やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内
 同 様 … ±1ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
 やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
 低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
 相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 理科 領域別正答率グラフ □



□ 理科の概要 □

- 物質を化学式で表すことは、ほぼ定着しています。
- 気圧の変化をモデルを使った実験と関連させて考えることができています。
- 実験を計画することと、課題に正対した考察を持つことには、課題があります。
- 電磁誘導に関する科学的概念を使って説明することに課題があります。

理科

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用ができるかをみる、以下の問題で構成されています。
- ・ オームの法則、脊椎動物の名称、水溶液の濃度、天気図の読み取りなどの基礎的知識に関すること。
 - ・ 誘導電流の発生する実験における、科学用語を使った説明。
 - ・ 化学変化に関する実験結果の分析。
 - ・ 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる実験の計画。
 - ・ 消化に関すること、水温と魚の呼吸に関する実験からの考察を検討し改善する。
 - ・ 問題数は、25問です。

【各領域の傾向】

- ・「物理的領域」「化学的領域」は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「生物的領域」は、全道・全国より相当低く課題があります。
- ・「地学的領域」は、全道よりやや低く、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
化学	1 (1) 化学式で表す	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	80.1%	80.3%	79.6%
生物	7 (1) 消化酵素によってできる物質	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	74.4%	75.3%	72.2%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
物理	5 (1) オームの法則から、抵抗の値を求める	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	51.0%	61.6%	59.6%
化学	1 (3) 水上置換法を使えない理由	水上置換法では、二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する	42.2%	54.5%	53.0%
生物	7 (3) 見出した問題を基に、適切な課題を設定	キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	43.8%	55.3%	57.3%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
物理	5 (2) スイッチを入り切りによる磁界の変化を説明	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明	44.6%	45.7%	54.3%	33.2%	56.8%	30.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・抵抗の計算は、単に「オームの法則」の公式に当てはめるのではなく、電圧と電流のグラフから考えさせる指導が必要です。
- ・気体の特性に応じた捕集法を指導する必要があります。
- ・自然の事物・現象から問題を見出し、適切に課題作づくりができるよう指導する必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 66.4%、全国の 61.9% に対して石狩市は 71.2% で全道より 4.8 ポイント、全国より 9.3 ポイント高くなっています。
- ・「観察や実験を行うことは好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 82.9%、全国の 80.1% に対して石狩市 83.2% で全道より 0.9 ポイント、全国より 3.1 ポイント高くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 70.0%、全国の 69.3% に対して石狩市は 69.2% で全道より 0.8 ポイント、全国より 0.1 ポイント低くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道 69.9%、全国の 66.8% に対して石狩市は 70.4% で全道より 0.5 ポイント、全国より 3.6 ポイント高くなっています。
- ・「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」に対する肯定的な回答は、全道の 74.8%、全国の 75.5% に対して石狩市は 69.8% で、全道より 5.0 ポイント、全国より 5.7 ポイント低くなっています。

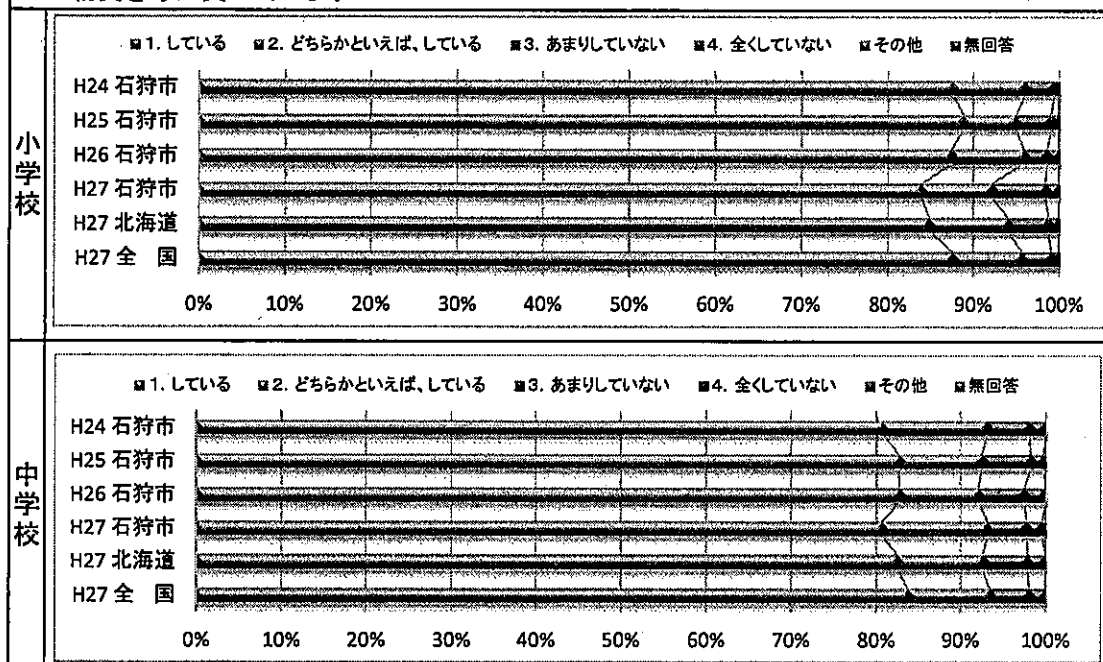
平成27年度 学習状況調査 [児童・生徒質問紙] より

I 生活習慣

朝食を食べる習慣は定着傾向

「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で92.2%(全国比-3.4ポイント、全道比-1.9ポイント)で、中学生では、93.1%(全国比-0.4ポイント、全道比+0.6ポイント)でした。朝食をとる習慣の定着が伺えます。

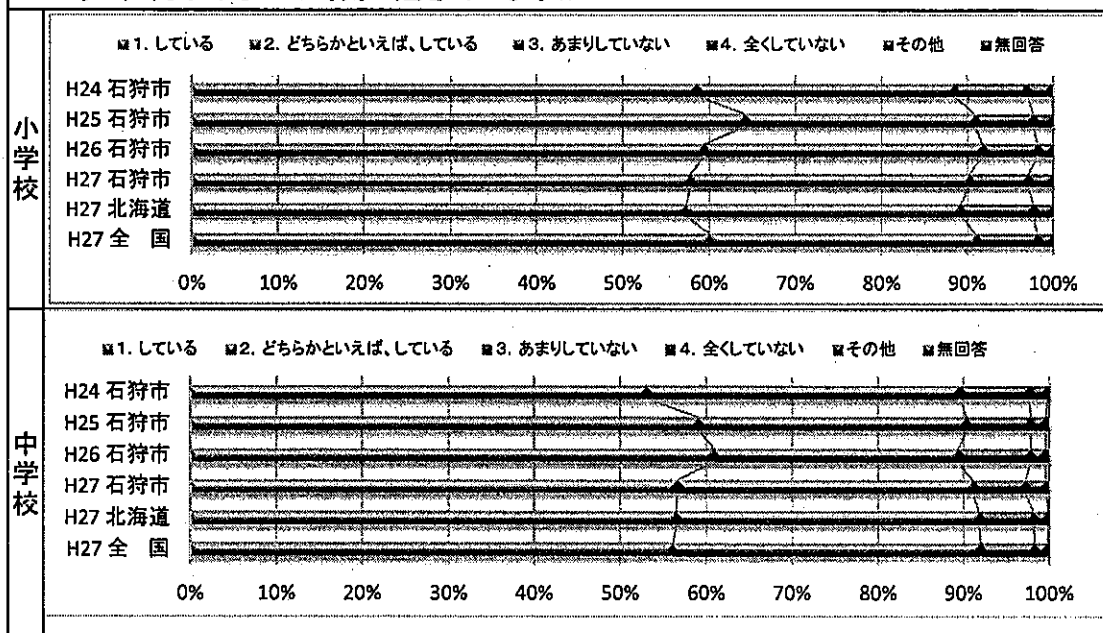
1. 朝食を毎日食べていますか



起床時刻は定着傾向

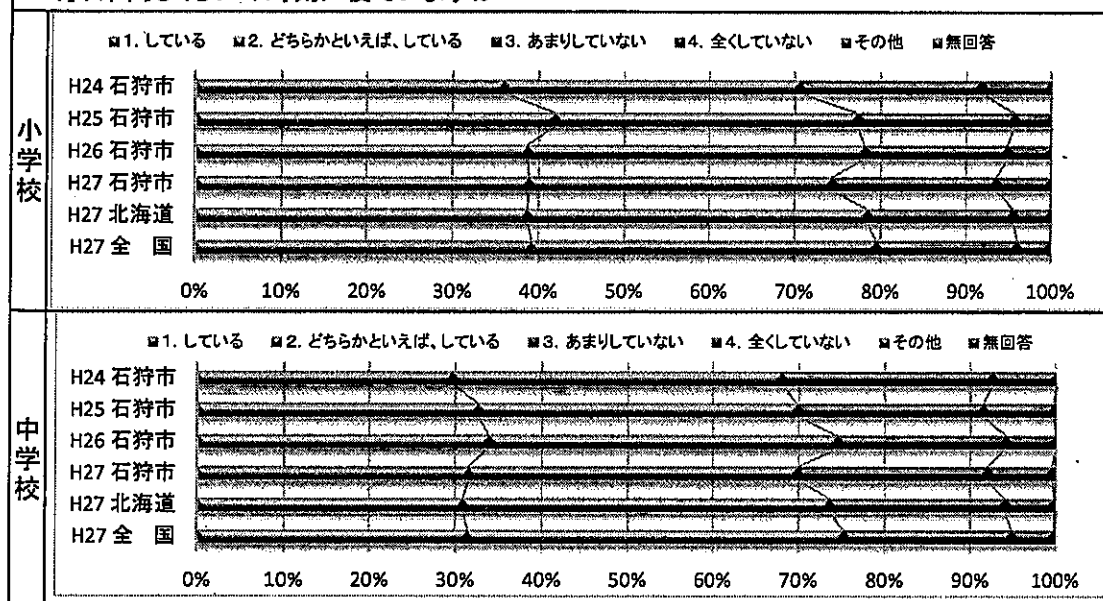
「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえばそうしている」割合は、小学生で90.2%(全国比-0.8ポイント、全道比+1.0ポイント)で、中学生では、91.1%(全国比-1.0ポイント、全道比-0.7ポイント)でした。起床時間の定着が伺えます。

2. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえばそうしている」割合は、小学生で74.4%(全国比-5.1ポイント、道比-4.1ポイント)で、中学生では、69.9%(全国比-5.3ポイント、全道比-3.7ポイント)でした。

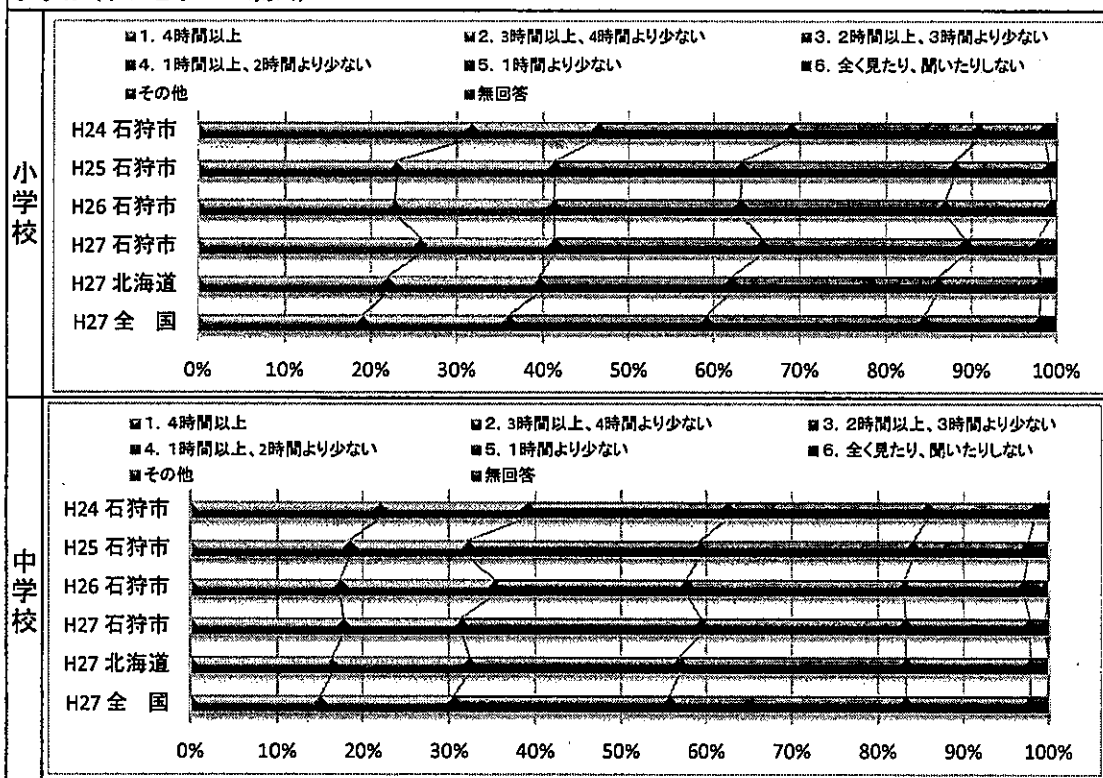
3. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



TV・ビデオ等の視聴やゲームの時間は、全国よりも多い傾向

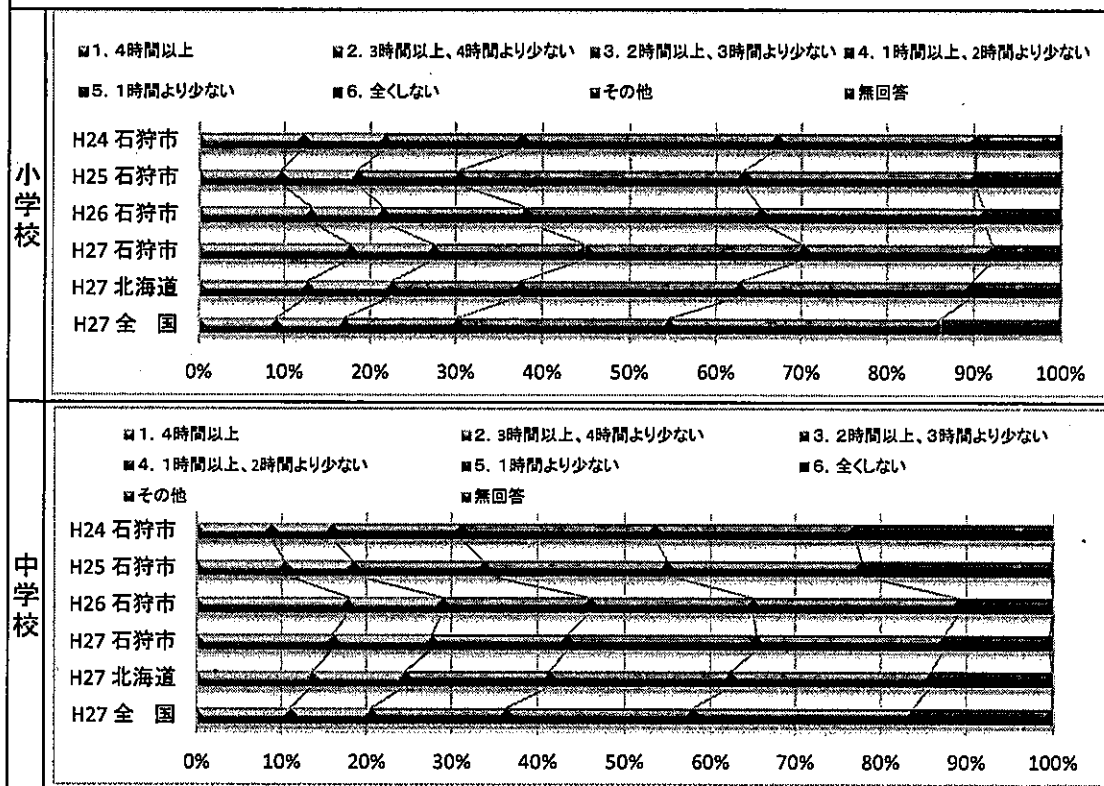
普段(月～金曜日)、1日当たり「3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている」は、小学生で41.3%(全国比+5.2ポイント、全道比+1.7ポイント)で、中学生では、31.4%(全国比+0.9ポイント、全道比-0.9ポイント)でした。全道・全国平均よりも高い傾向にあります。

4. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上テレビゲームをしている割合は, 小学生で27.4%(全国比+10.4ポイント, 全道比+4.8ポイント)で, 中学生では, 27.7%(全国比+7.2ポイント, 全道比+3.2ポイント)でした。小学生、中学生もゲームをする時間が増加傾向にあります。

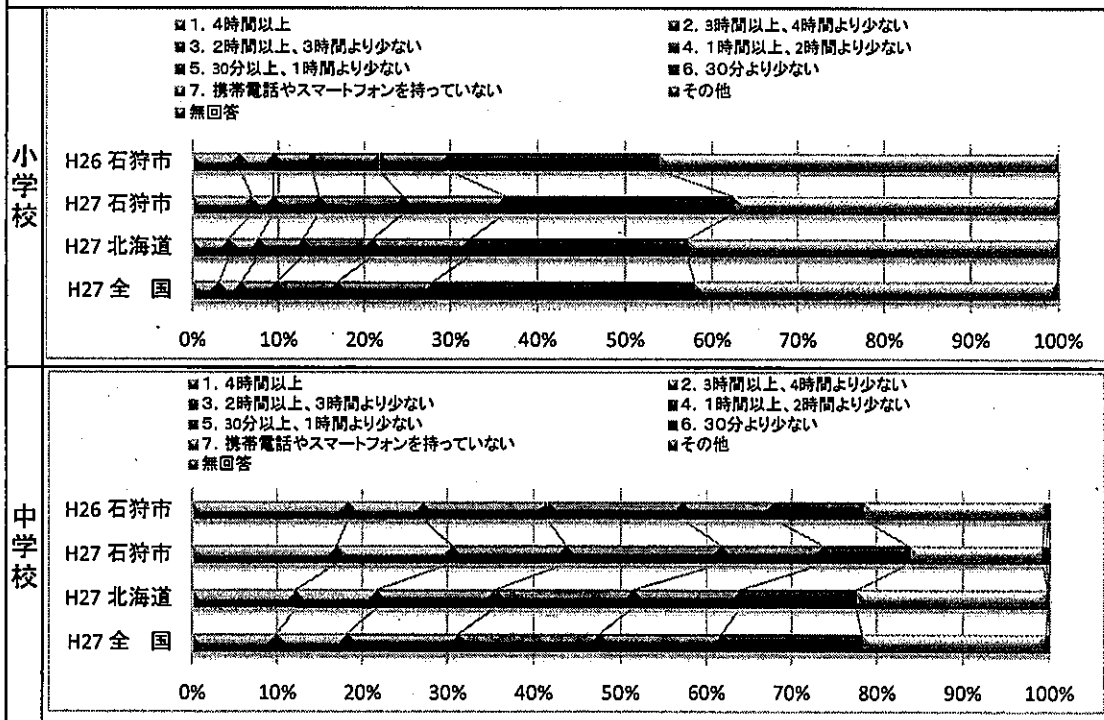
5. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



メール・インターネットの時間も多い傾向

普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしている」割合は, 小学生で9.4%(全国比+3.7ポイント, 全道比+1.7ポイント)で, 中学生では, 30.5%(全国比+12.3ポイント, 全道比+8.8ポイント)でした。小学生も中学生も, 利用している割合が高い状況にあります。

6. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

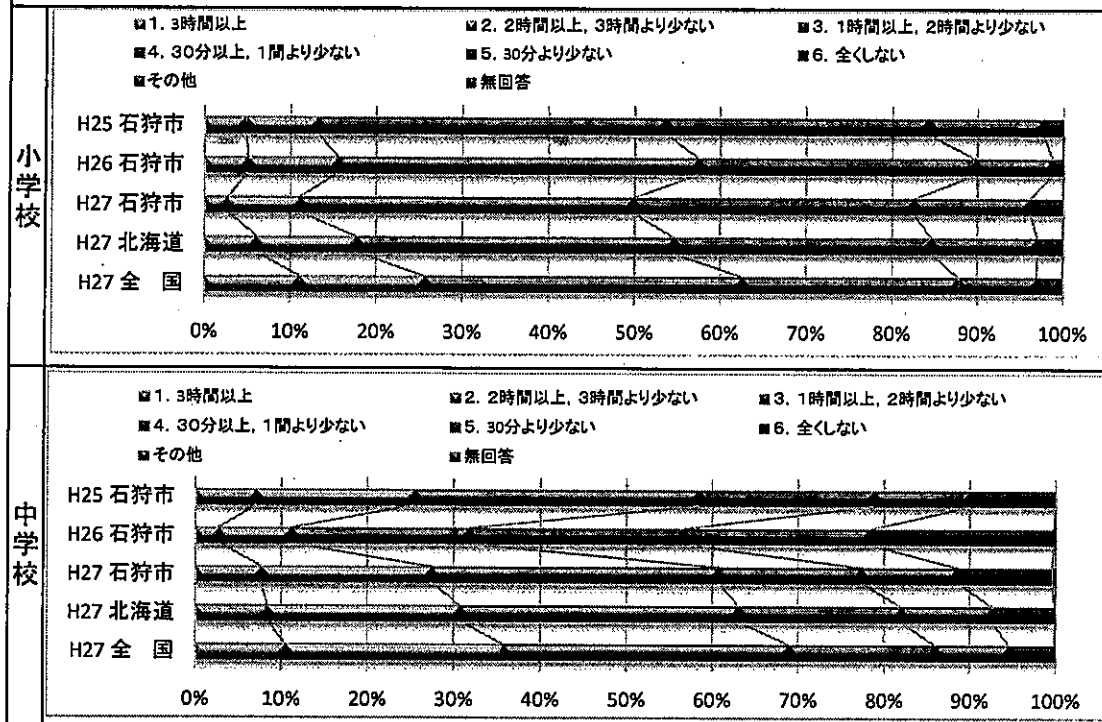


Ⅱ 家庭学習・読書

平日、土・日の学習は、中学生が増加傾向

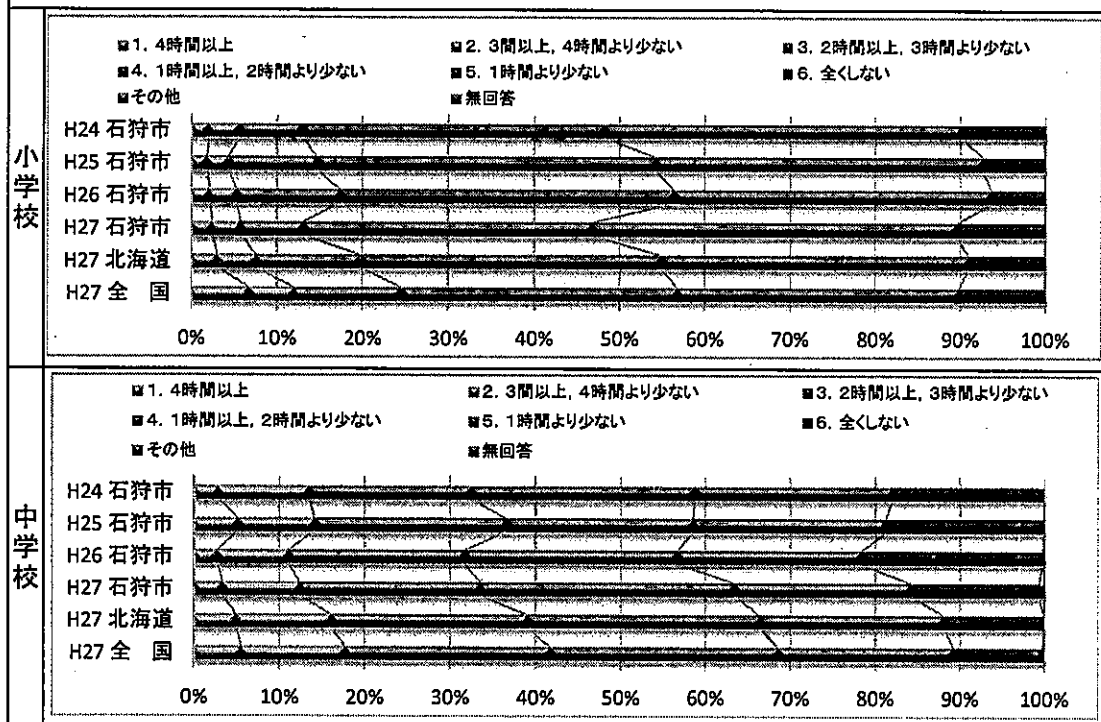
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、小学生で49.8%(全国比-12.9ポイント、全道比-4.8ポイント)で、中学生では60.8%(全国比-8.2ポイント、全道比-2.2ポイント)でした。中学生の勉強時間が、昨年度よりも増加しています。

7. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、小学生で13.0%(全国比-11.5ポイント、全道比-6.7ポイント)で、中学生では33.5%(全国比-8.2ポイント、全道比-5.5ポイント)でした。中学生の勉強時間が、昨年度よりも増加しています。

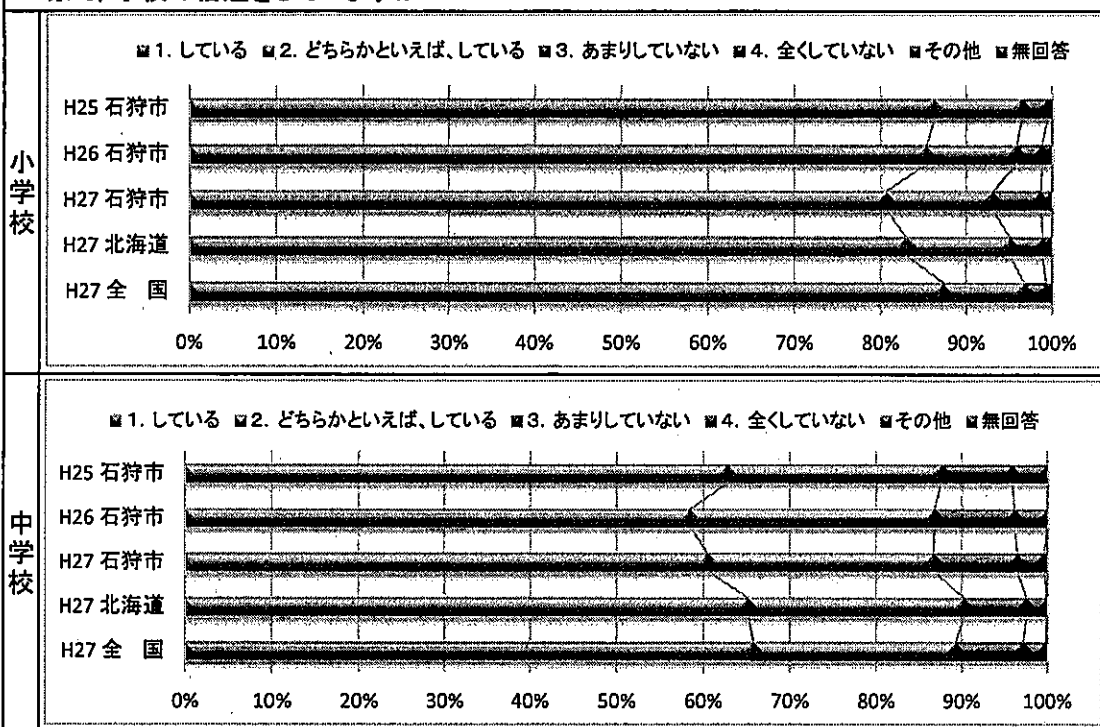
8. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



「計画を立てて家庭学習」は、中学生が増加傾向

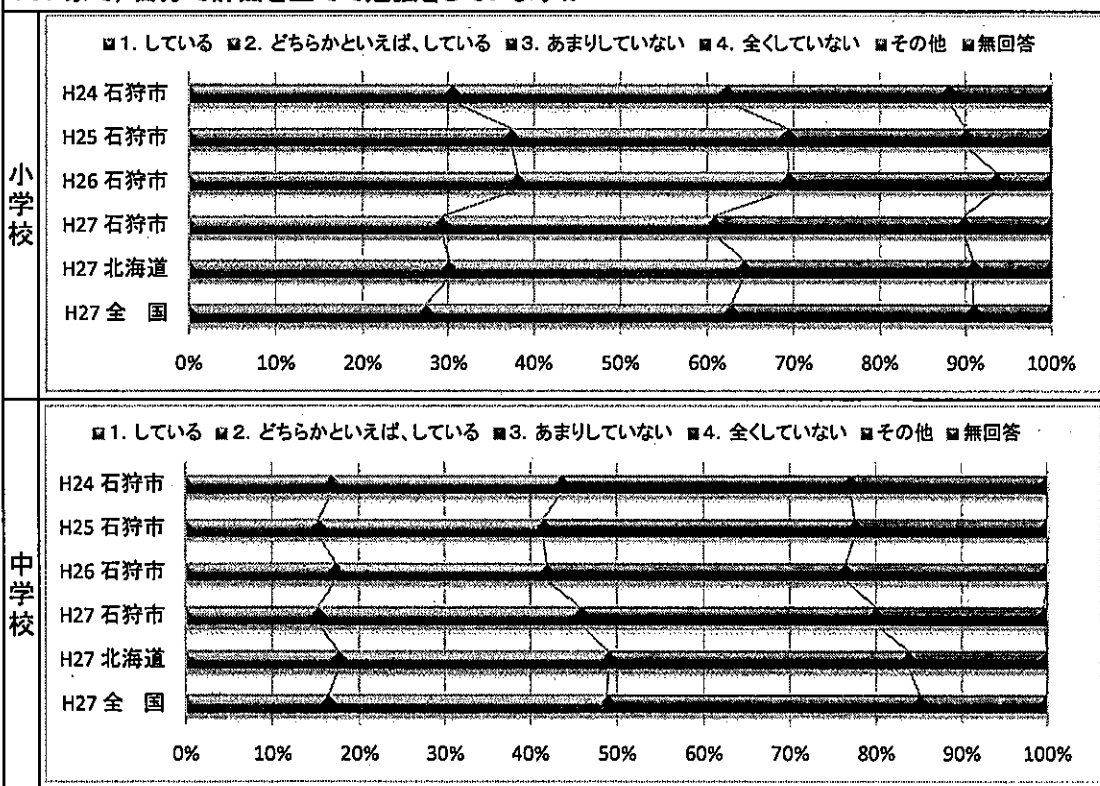
家で、「学校の宿題をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で93.1%(全国比-3.7ポイント, 全道比-1.9ポイント)で、中学生では86.7%(全国比-2.6ポイント, 全道比-3.6ポイント)でした。全道・全国平均を下回っています。

9. 家で、学校の宿題をしていますか



家で、「自分で計画を立てて勉強をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で60.8%(全国比-2.0ポイント, 全道比-3.4ポイント)で、中学生では45.7%(全国比-3.1ポイント, 全道比-3.3ポイント)でした。中学生は、増加傾向にあります。

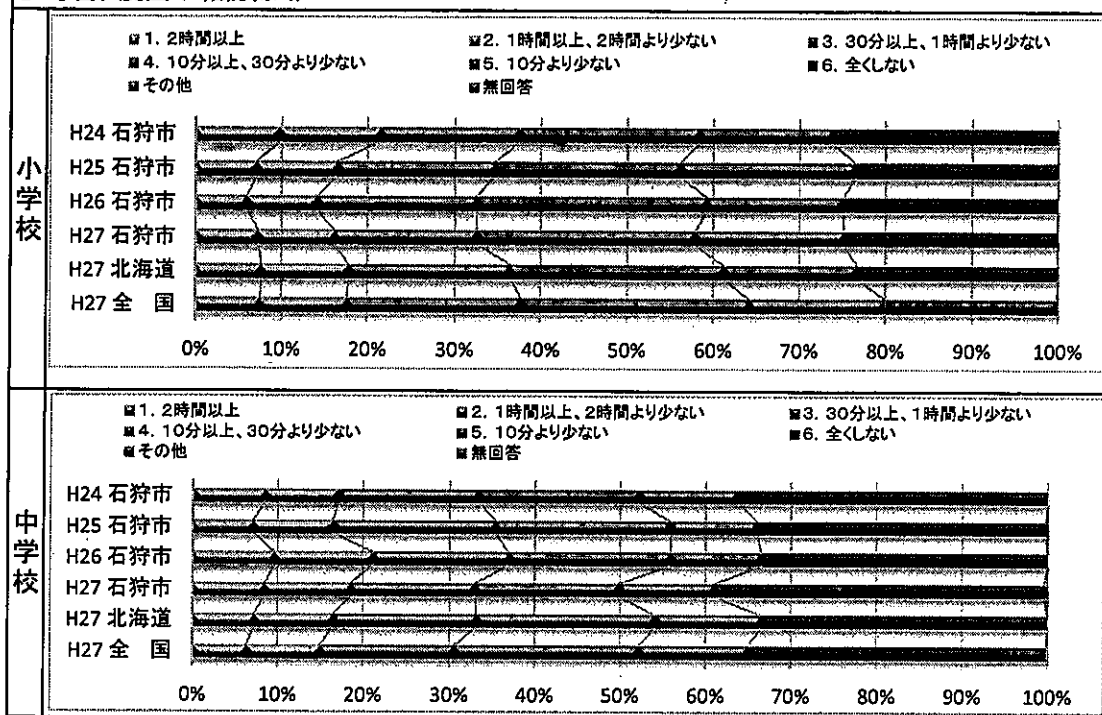
10. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



家庭や図書館で2時間以上読書をする小・中学生は、全国とほぼ同様

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「2時間以上読書をする」割合は、小学生で7.3%(全国比-0.2ポイント、全道比-0.4ポイント)で、中学生では、8.5%(全国比+2.2ポイント、全道比+1.3ポイント)でした。2時間以上読書をする小学生、中学生の割合は全国平均となっています。

11. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

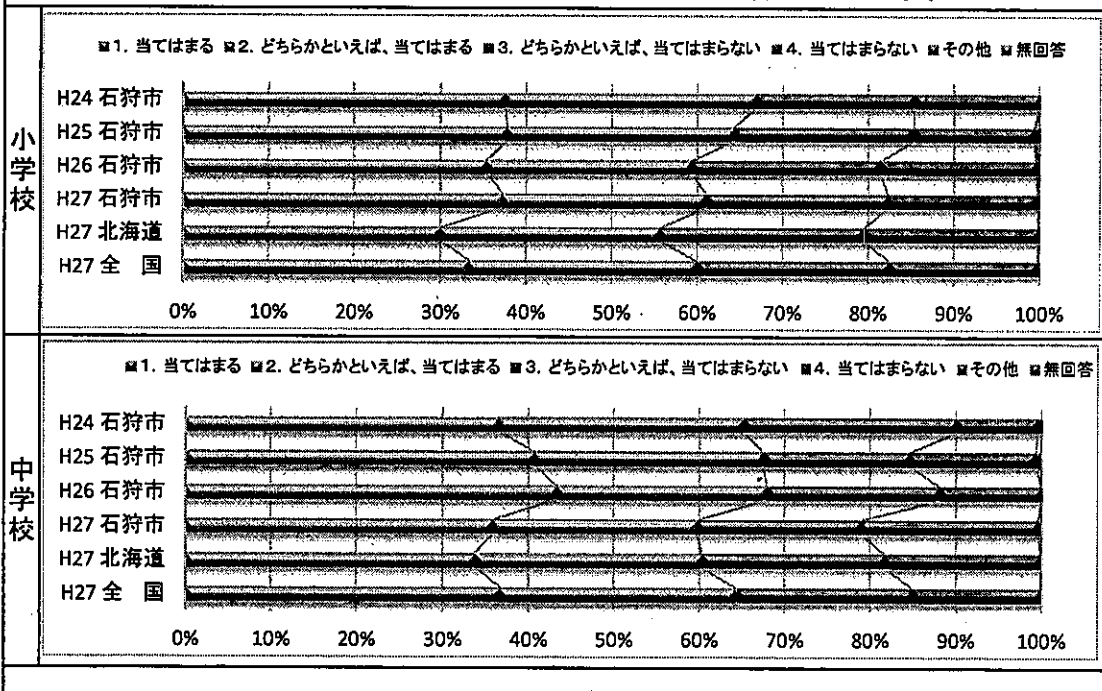


Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文を苦手とする小中学生は、全国とほぼ同じ傾向

「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う・どちらかといえば思う」割合は、小学生で61.1%(全国比+1.0ポイント、全道比+5.7ポイント)で、中学生では59.8%(全国比-4.6ポイント、全道比-0.6ポイント)でした。作文苦手とする小学生・中学生の割合は、全国平均とほぼ同様の傾向にあります。

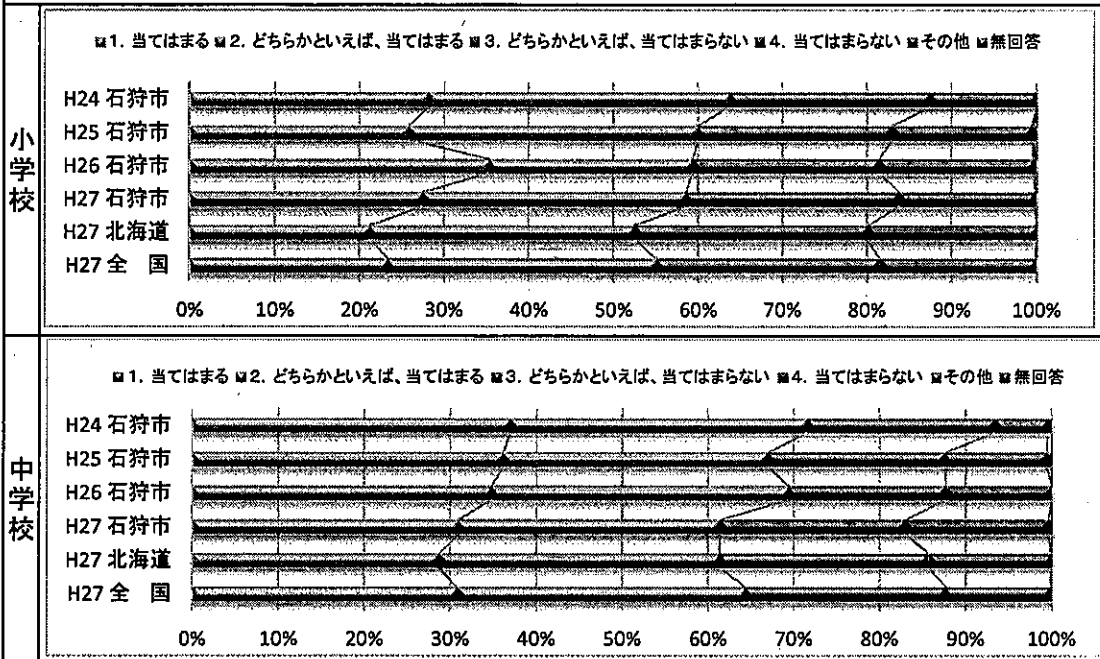
12. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



自分の考えを表現することは、改善傾向

学校の授業などで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う・どちらかといえば思う」割合は、小学生で58.6%(全国比+3.4ポイント、全道比+6.1ポイント)で、中学生では61.4%(全国比-3.0ポイント、全道比0ポイント)でした。小学生も中学生も、改善傾向にあります。

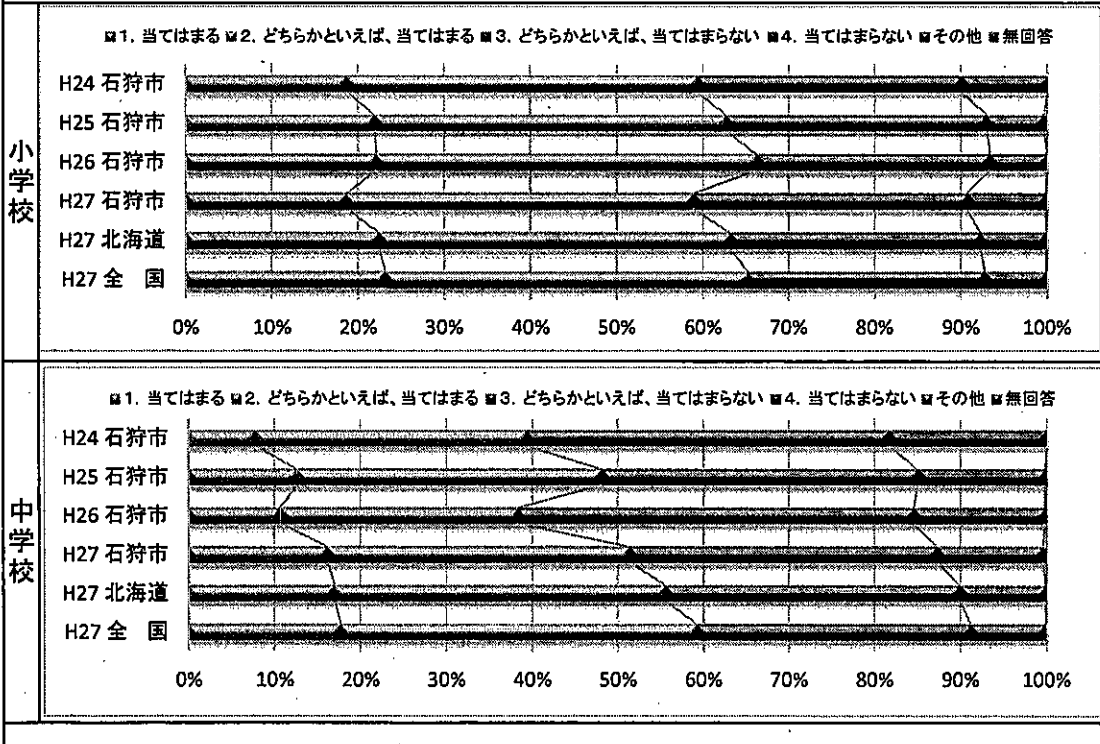
13. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



「国語の授業で資料を読み、表記する」は、中学生で向上の傾向

国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている・どちらかと言うとしている」割合は、小学生で58.9%(全国比-6.3ポイント、全道比-4.3ポイント)で、中学生では51.4%(全国比-7.8ポイント、全道比-4.2ポイント)で、昨年度より13.1ポイント高い結果でした。全道・全国平均を下回っていますが、中学生に向上の傾向がみられます。

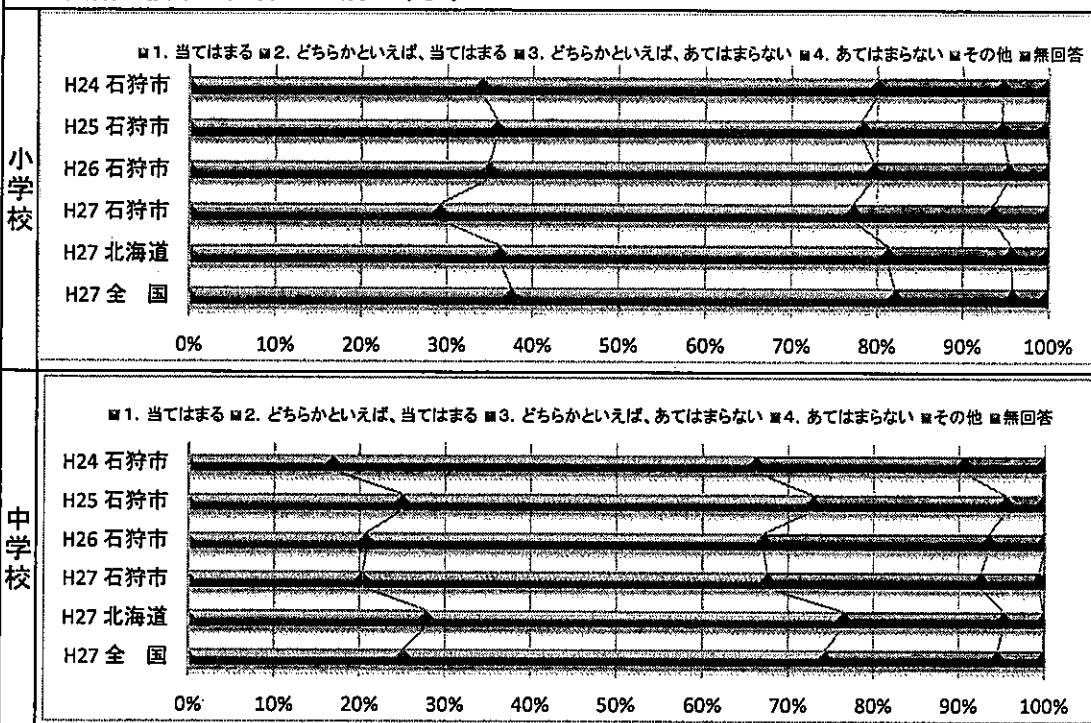
14. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



「国語の授業が分かる」は、ほぼ昨年同様

国語の授業の内容が「よく分かる・どちらかと言うと分かる」と回答している児童生徒の割合は、小学生で77.3%(全国比-4.7ポイント、全道比-3.9ポイント)で、中学生では67.5%(全国比-6.8ポイント、全道比-8.9ポイント)でした。昨年とほぼ同様の割合となっています。

15. 国語の授業の内容はよく分かりますか

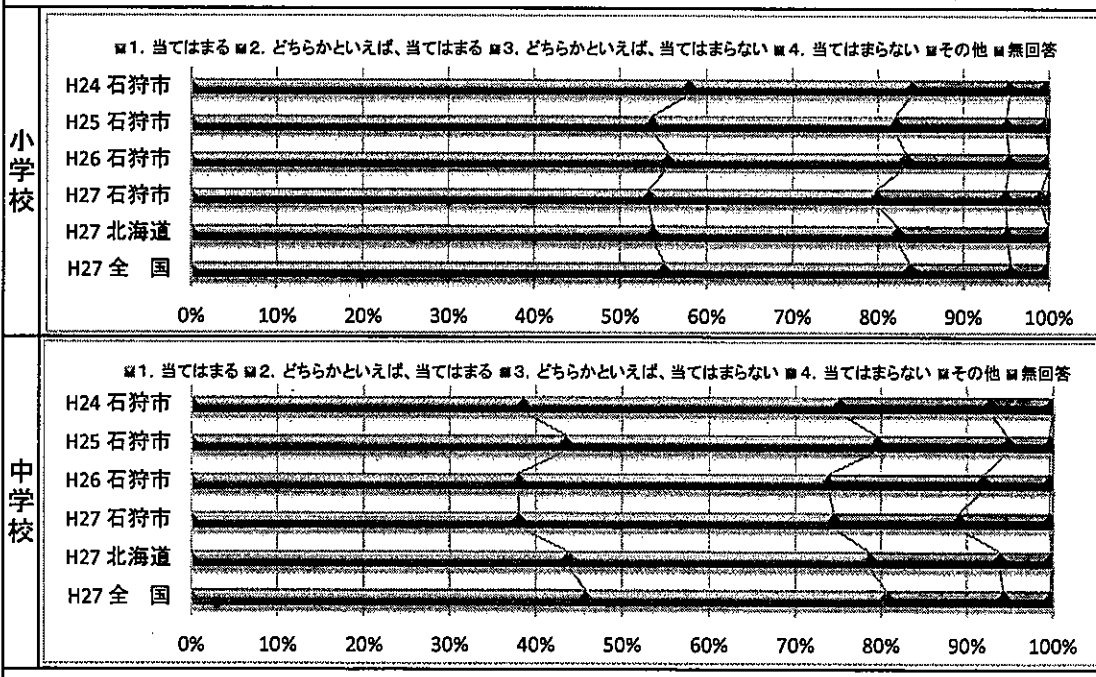


IV 算数・数学の学習について

「算数・数学のノートの工夫」は、ほぼ昨年同様

算数・数学の授業で、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている・どちらかというように書いている」割合は、小学生で79.8%(全国比-4.0ポイント、全道比-2.4ポイント)で、中学生では74.5%(全国比-6.1ポイント、全道比-4.1ポイント)でした。昨年度とほぼ同様の傾向がみられます。昨年度とほぼ同様の傾向がみられます。

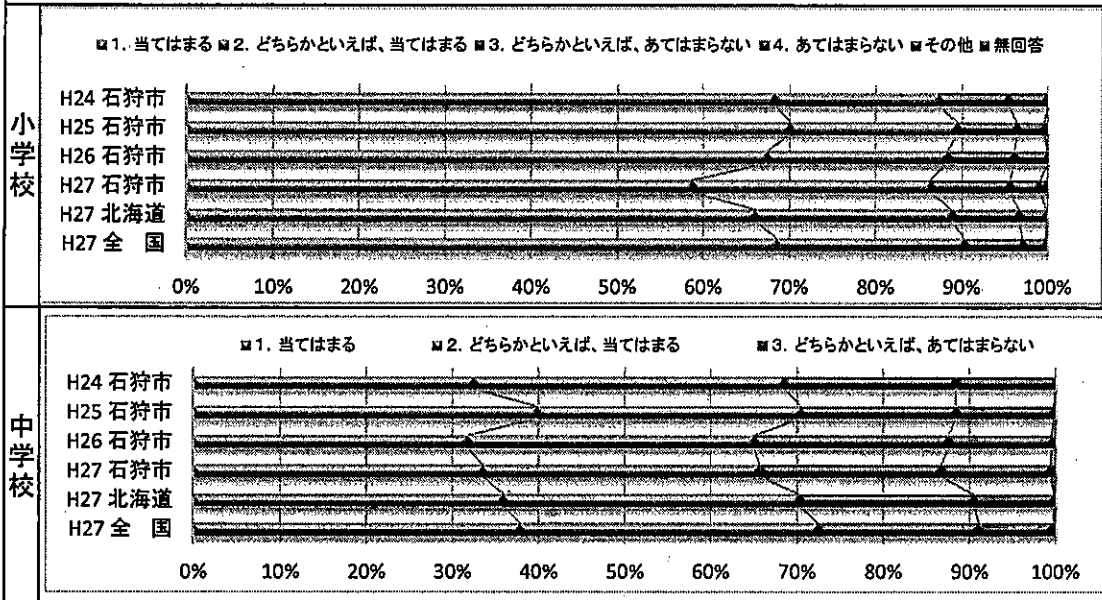
16. 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



「算数・数学の授業は将来役に立つ」指導がポイント

算数・数学の授業の内容が「将来、社会に出たときに役にたつ・どちらかと言うと将来、社会に出たときに役にたつ」割合は、小学生で86.3%(全国比-4.0ポイント、全道比-2.6ポイント)で、中学生では65.7%(全国比-6.8ポイント、全道比-4.5ポイント)でした。「将来、社会に出たときに役に立つ」と思える指導・授業づくりが今後のポイントとなります。

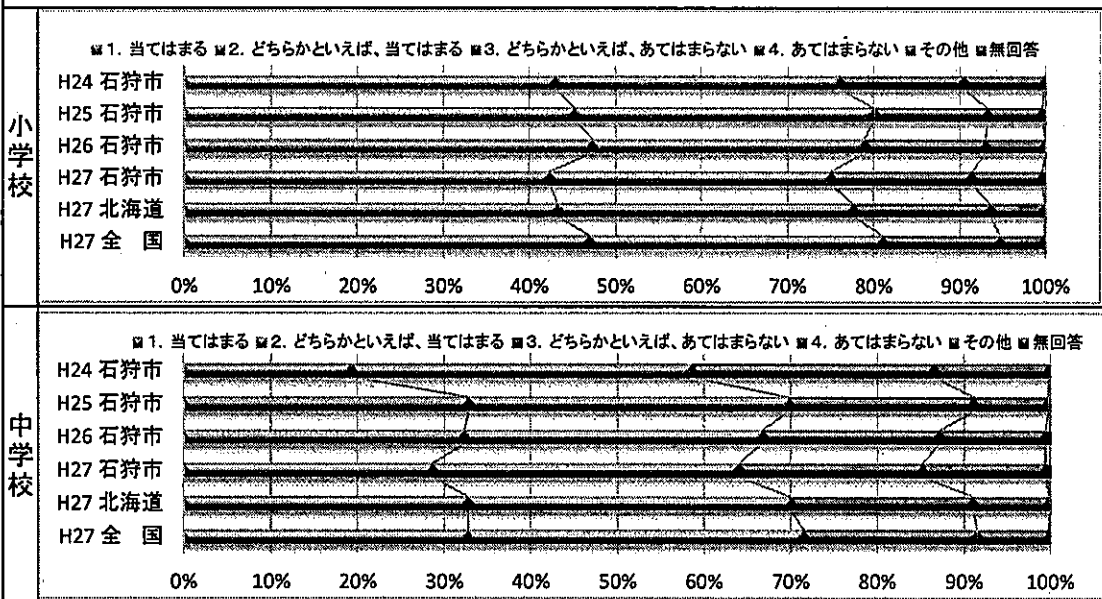
17. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役にたつと思いますか



「算数・数学の授業」は授業改善が鍵

算数・数学の授業の内容が「よく分かる・どちらかと言うと分かる」割合は、小学生で75.1%(全国比-5.9ポイント、全道比-2.6ポイント)で、中学生では64.0%(全国比-7.6ポイント、全道比-6.0ポイント)でした。全道・全国平均を下回り、今後の授業改善が鍵となってきます。

18. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

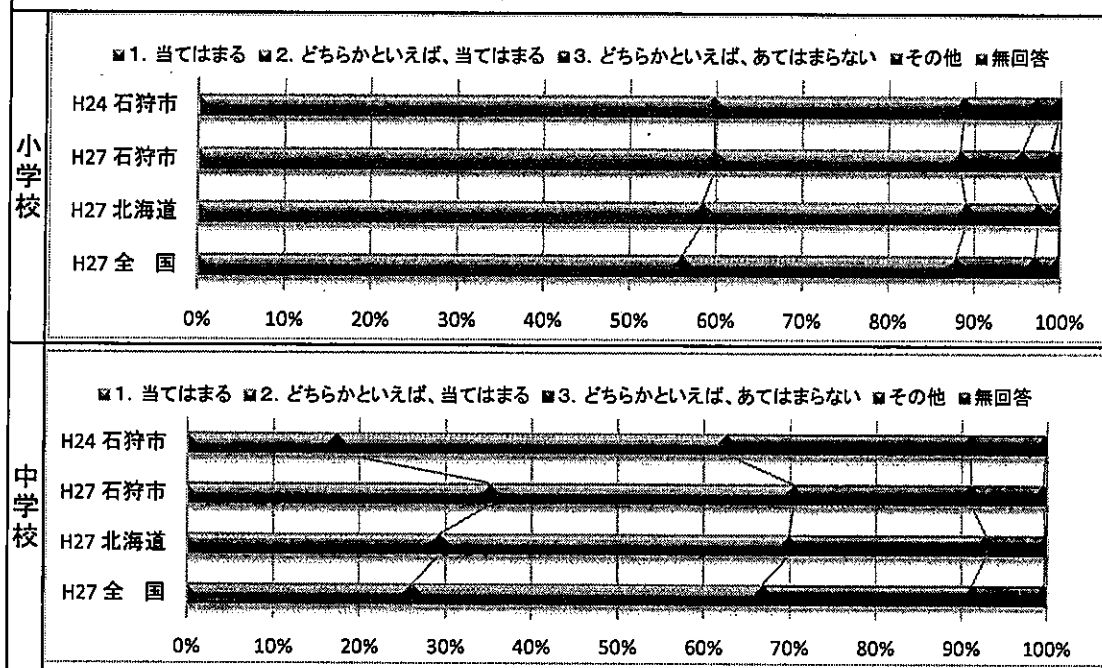


V 理科の学習について

「理科の学習が分かる・好き」は全国平均以上に

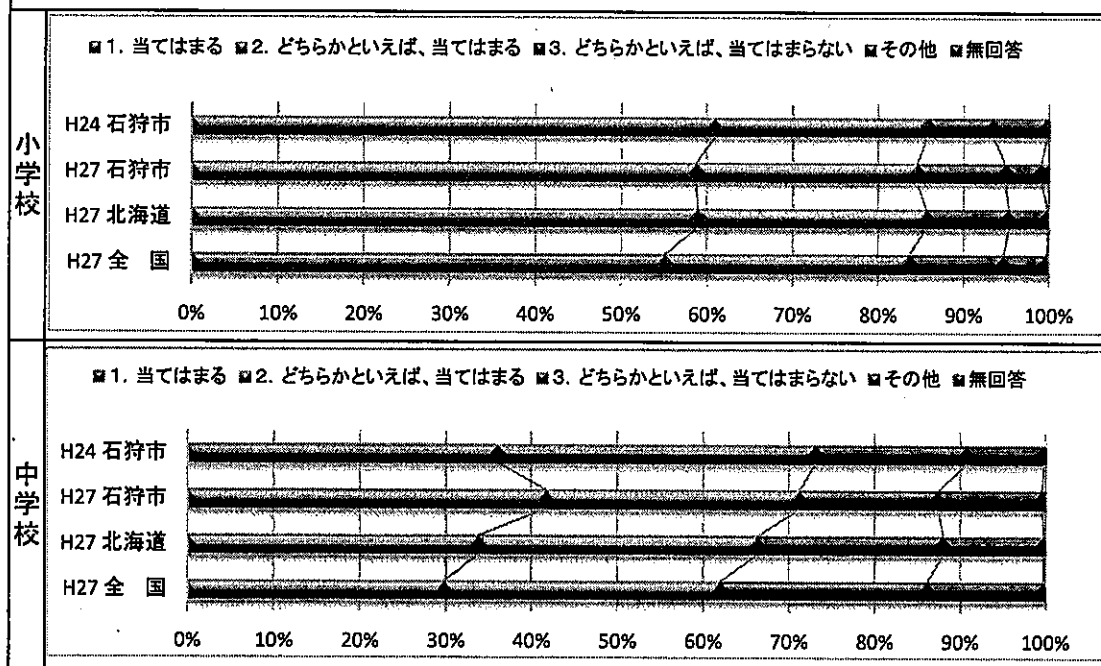
理科の授業の内容が「よく分かる・どちらかというと分かる」割合は、小学生で88.3%(全国比+0.4ポイント、全道比-0.6ポイント)で、中学生では70.4%(全国比+3.6ポイント、全道比+0.5ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、「理科の授業がよく分かる」傾向にあります。

19. 理科の授業の内容はよく分かりますか



理科の勉強が「好き・どちらかという好き」の割合は、小学生で84.5%(全国比+1.0ポイント、全道比-1.1ポイント)で、中学生では、71.2%(全国比+9.3ポイント全道比+4.8ポイント)でした。全国を上回り、特に小学生が「理科の授業が好き」という傾向がみられます。

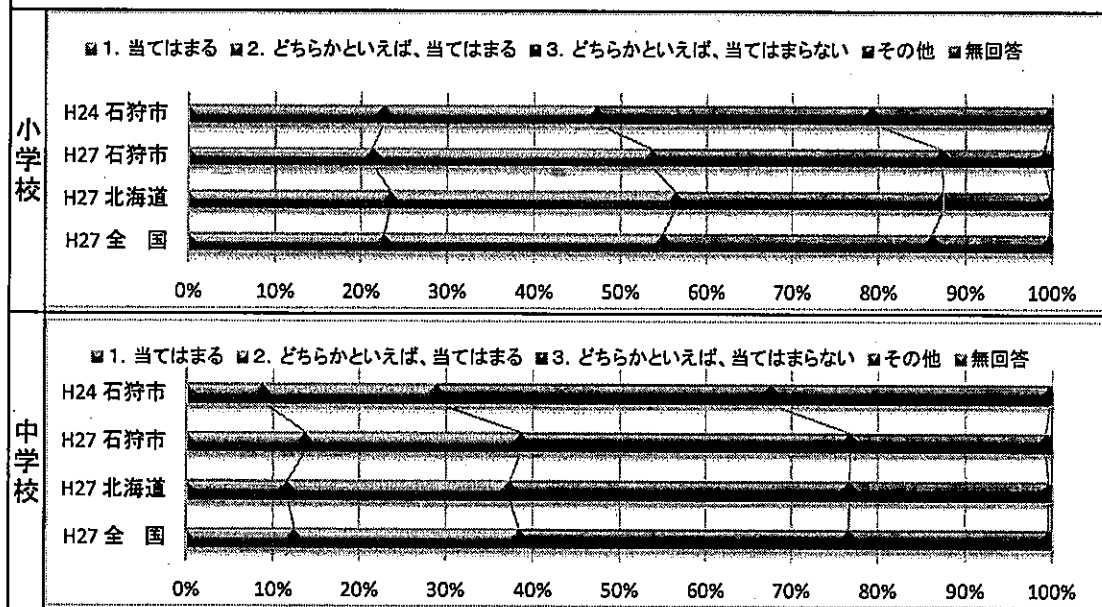
20. 理科の勉強は好きですか



「理科で自分の考えを表現する」は、向上の傾向

理科の授業で、「自分の考え(考察)をまわりの人に説明したり発表したりしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で53.5%(全国比-1.4ポイント、全道比-2.9ポイント)で、中学生では38.6%(全国比+0.2ポイント、全道比+1.3ポイント)でした。平成24年に比べ、向上の傾向がみられます。

21. 理科の授業で、自分の考え(考察)をまわりの人に説明したり発表したりしていますか

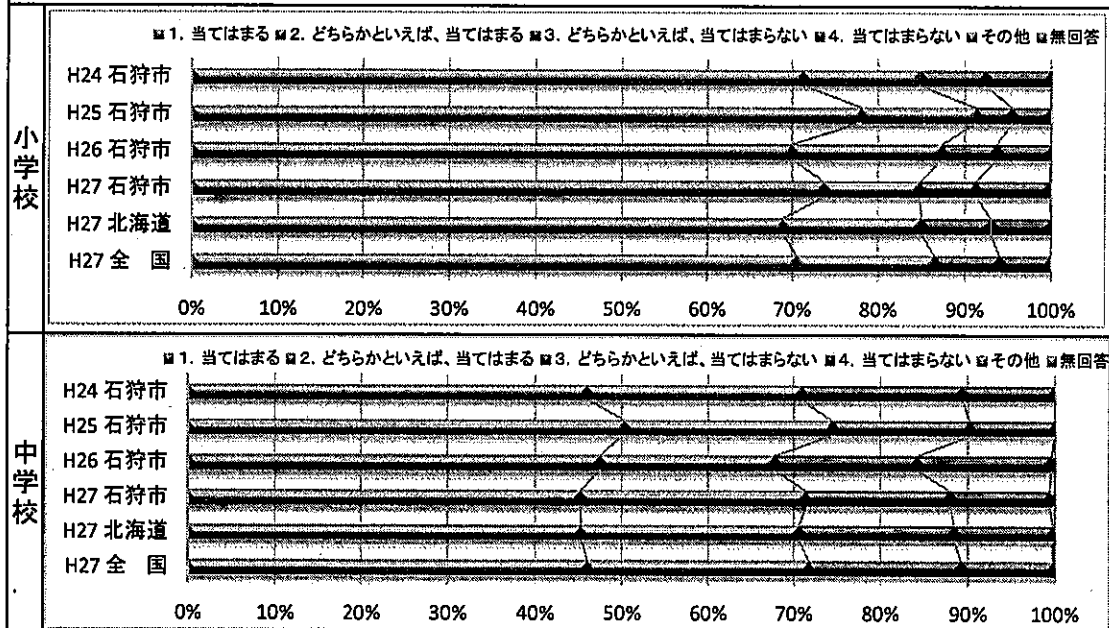


VI 将来に関する意識・自尊心・規範意識

将来に関する意識・自尊意識は、全道・全国と同様

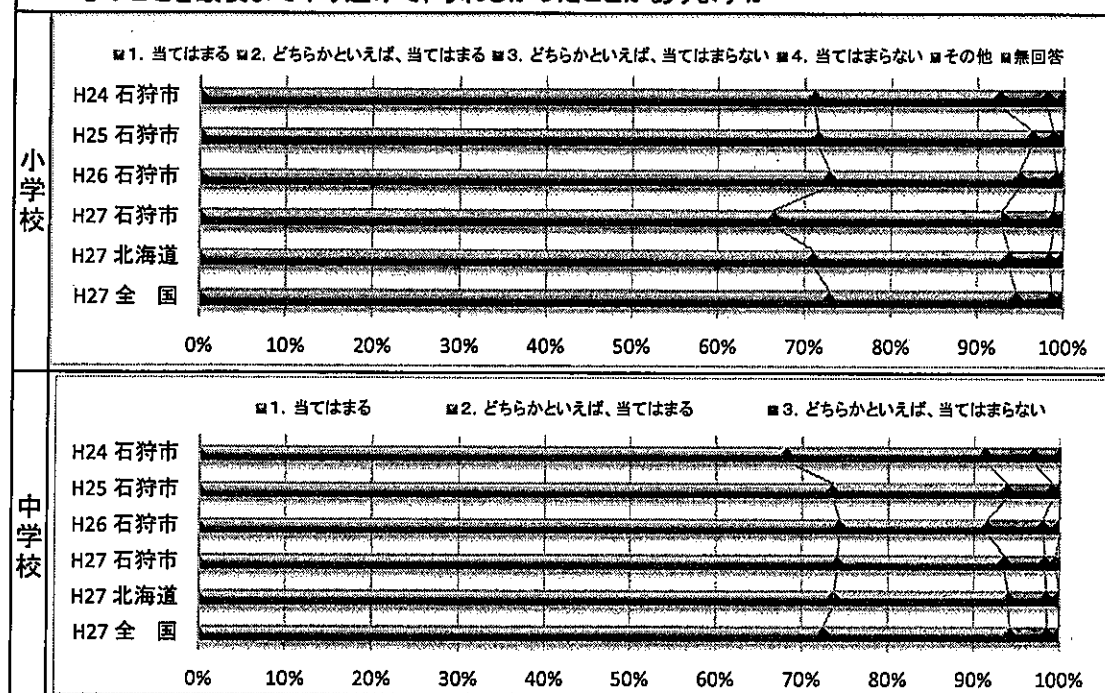
「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」割合は、小学生で84.7%(全国比-1.8ポイント、全道比-0.3ポイント)で中学生では71.4%(全国比-0.3ポイント、全道比+0.8ポイント)でした。全道・全国平均とほぼ同様の傾向がみられます。

22. 将来の夢や目標を持っていますか



ものごとを最後までやり遂げて、「うれしかったことがある・どちらかといえばある」割合は、小学生で92.9%(全国比-1.6ポイント、全道比-0.7ポイント)で、中学生では93.6%(全国比-0.6ポイント、全道比-0.4ポイント)でした。全道・全国平均とほぼ同様の傾向がみられます。

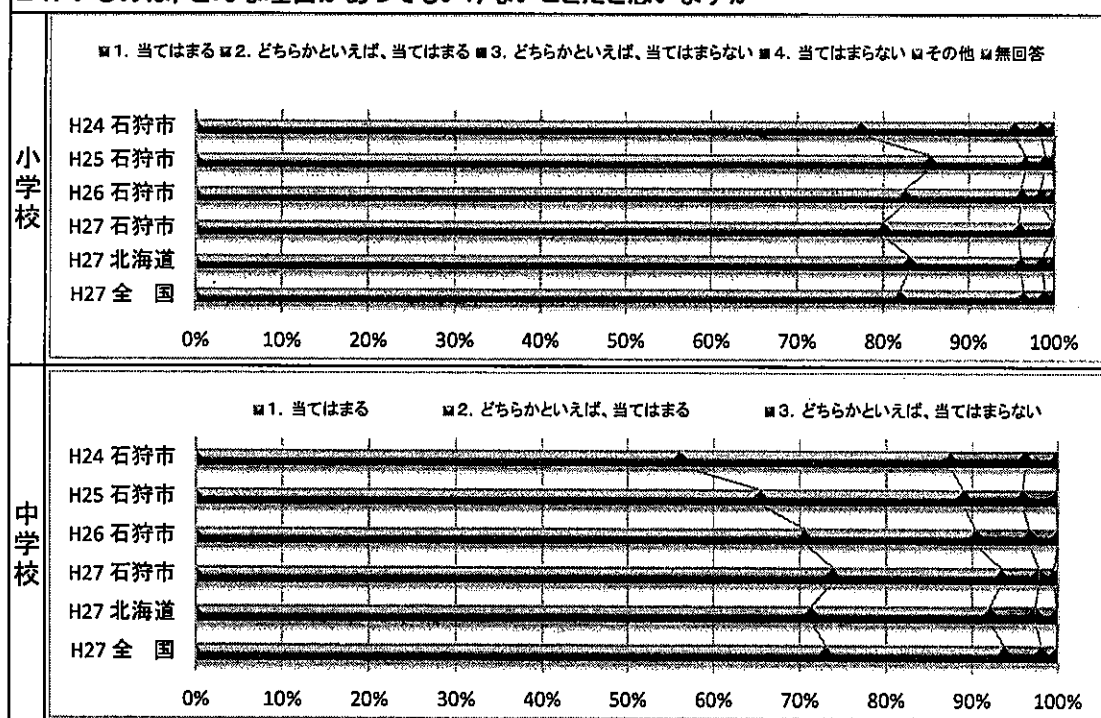
23. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



規範意識は、中学生に向上の傾向

いじめは、どんな理由があっても「いけないことだと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で95.8%(全国比-0.4ポイント、全道比-0.2ポイント)で、中学生では93.4%(全国比-0.3ポイント、全道比+1.3ポイント)でした。中学生に向上の傾向がみられます。

24. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



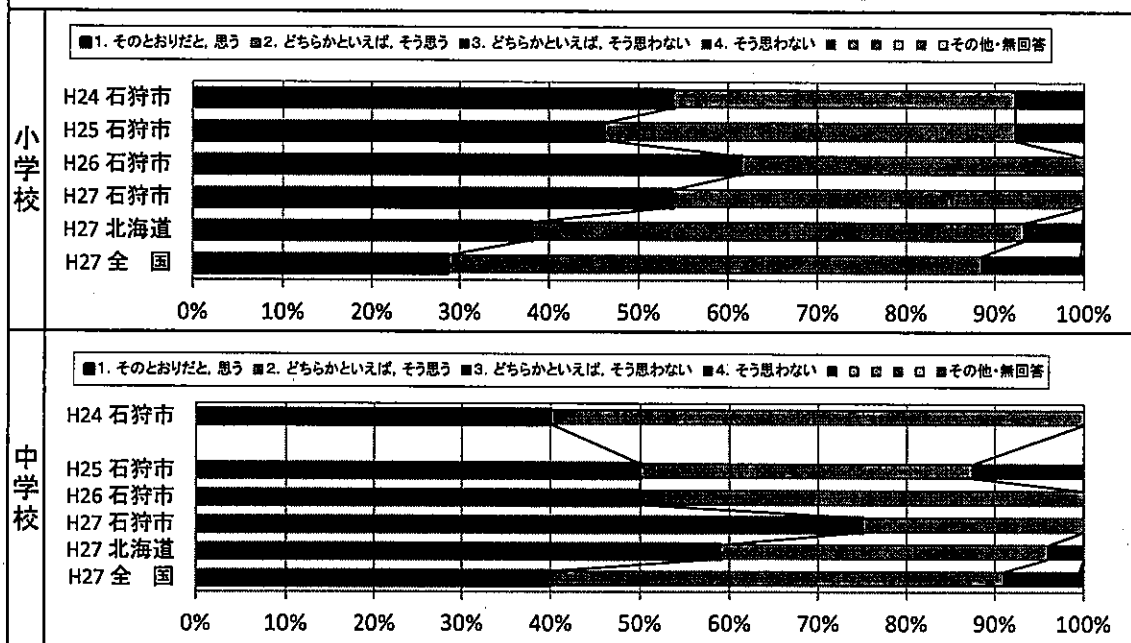
平成27年度 学習状況調査 「学校質問紙」 結果

I 学力態度・学習規律

礼儀正しく、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる

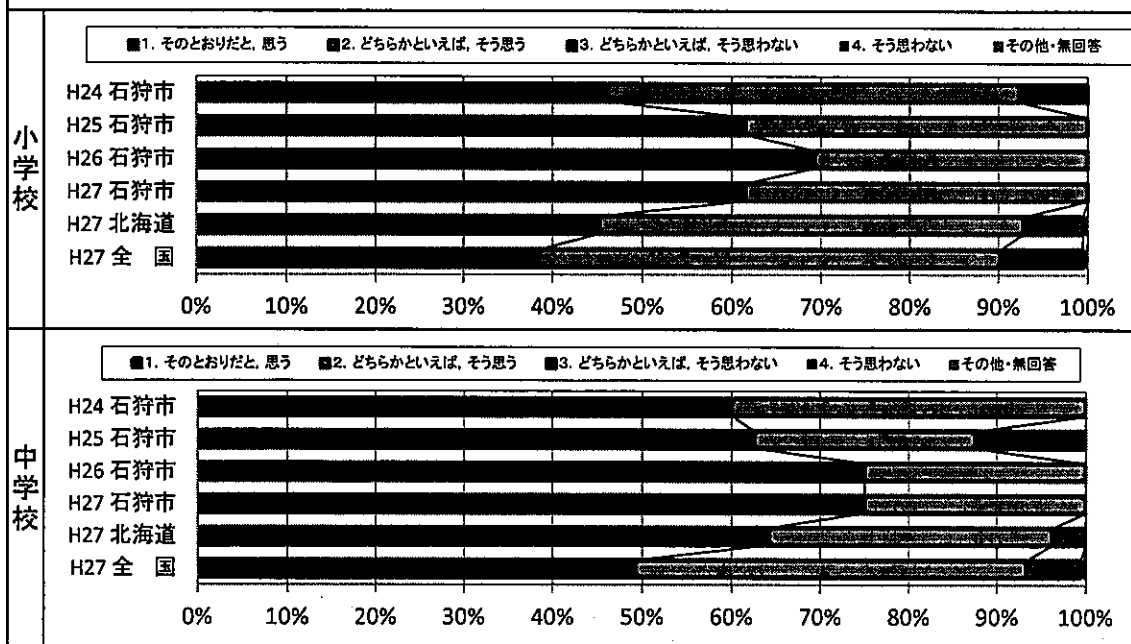
「礼儀正しい熱意を持って勉強している」割合は、小学校で53.8%(全国比+27.1ポイント、全道比+15.7ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+35.2ポイント、全道比+15.9ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、礼儀正しい態度で、授業に取り組んでいることが伺えます。

1. 調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいと思いますか



「私語がなく落ち着いている」割合は、小学校で61.5%(全国比+23.0ポイント、全道比+16.3ポイント)で、中学校では75.0%(全国比+25.7ポイント、全道比+10.8ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、落ち着いて授業に取り組んでいることが伺えます。

2. 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

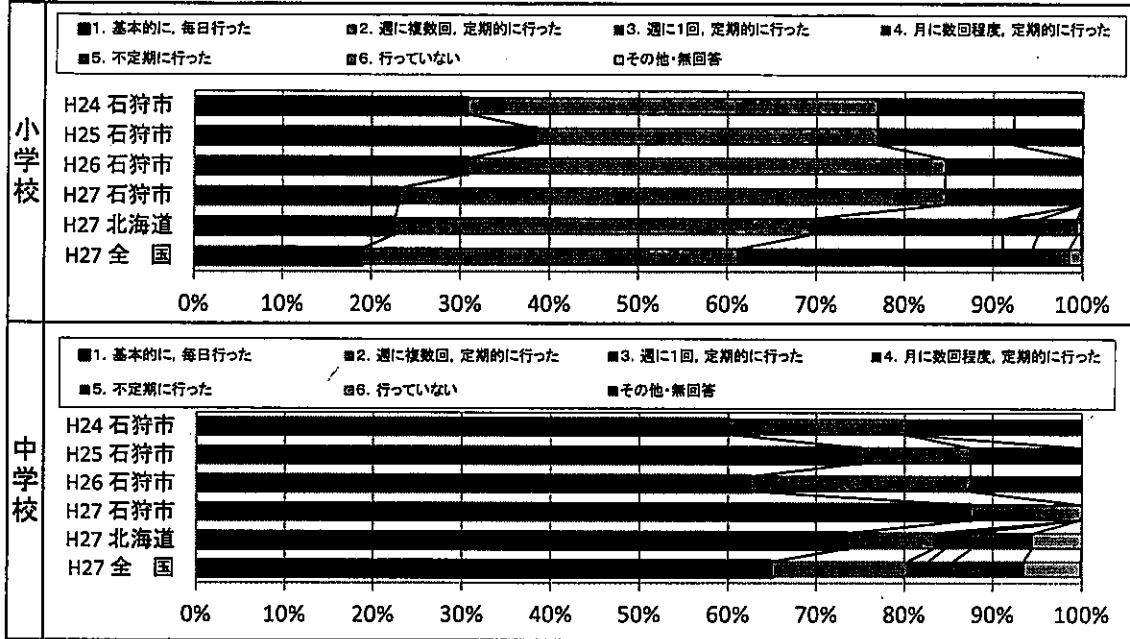


Ⅱ 学力向上に向けた取組

読書活動への取組が定着

「朝の読書」などの「一斉読書の時間を毎日設けた」割合は、小学校で23.1%(全国比+4.2ポイント、全道比+0.4ポイント)で、中学校では、87.5%(全国比+22.6ポイント、全道比+13.9ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、読書活動が定着していることが伺えます。

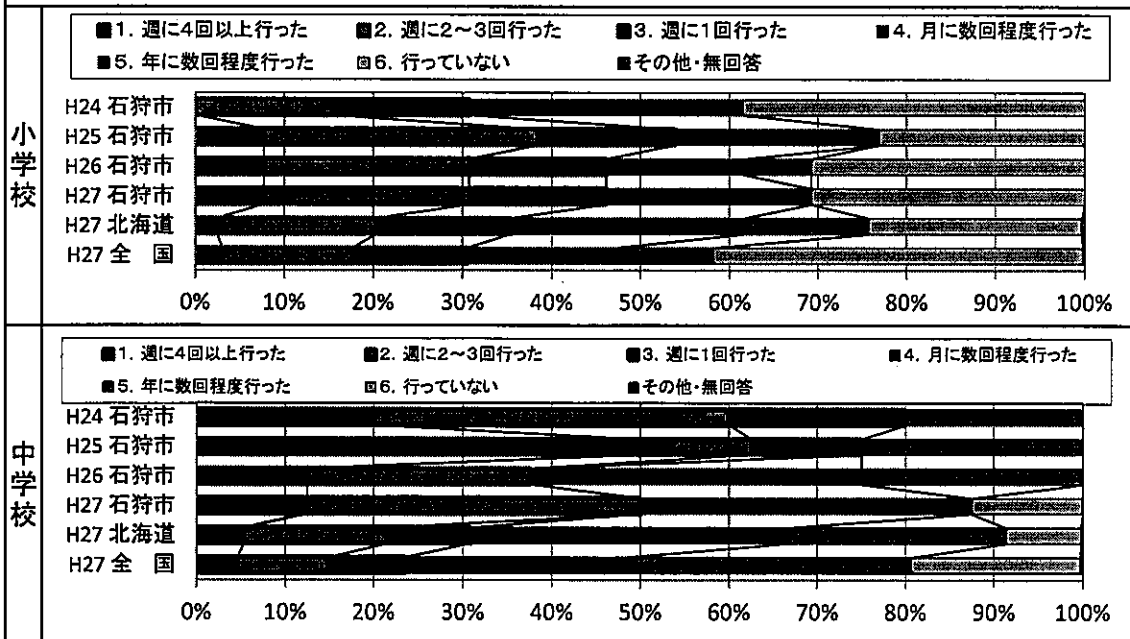
3. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



放課後や長期休業中を利用した補充的学習サポートが定着

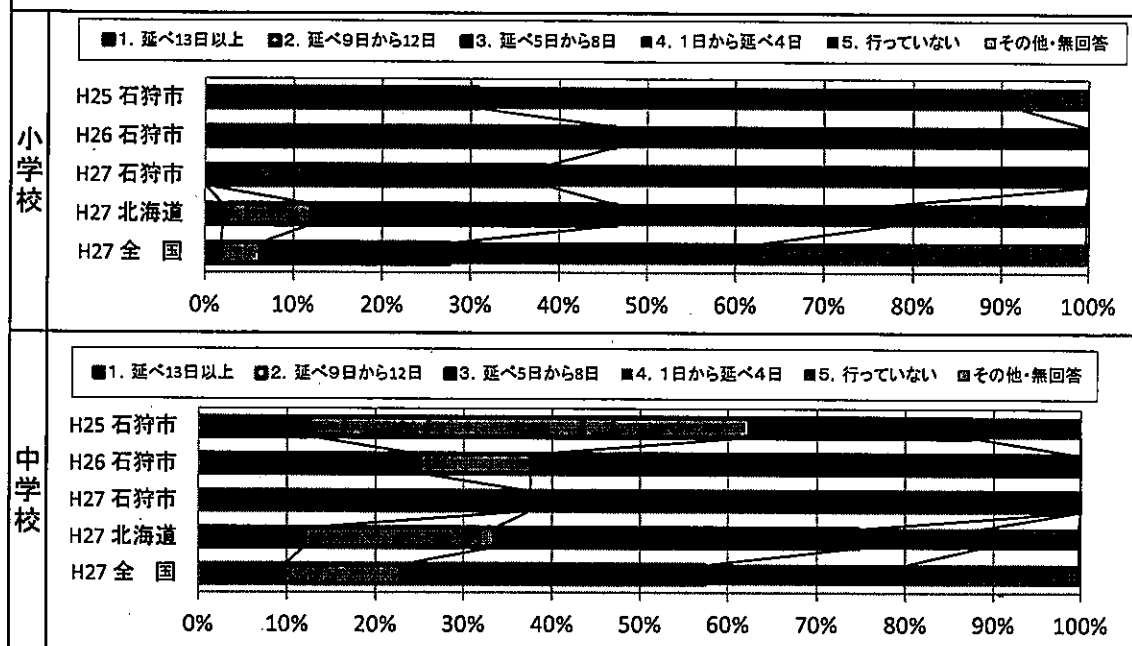
「放課後を利用した補充的な学習サポートを週に1回以上行った」割合は、小学校で46.2%(全国比+15.7ポイント、+10.8ポイント)で中学校では、50.0%(全国比+26.5ポイント、全道比+19.2ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より積極的な取組を推進していることが伺えます。

4. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



「長期休業日を利用した補充的な学習サポートを述べ5日以上実施した」割合は、小学校で38.5%(全国比+10.9ポイント、全道比-8.0ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+42.7ポイント、全道比+25.2ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より積極的な取組を推進していることが伺えます。

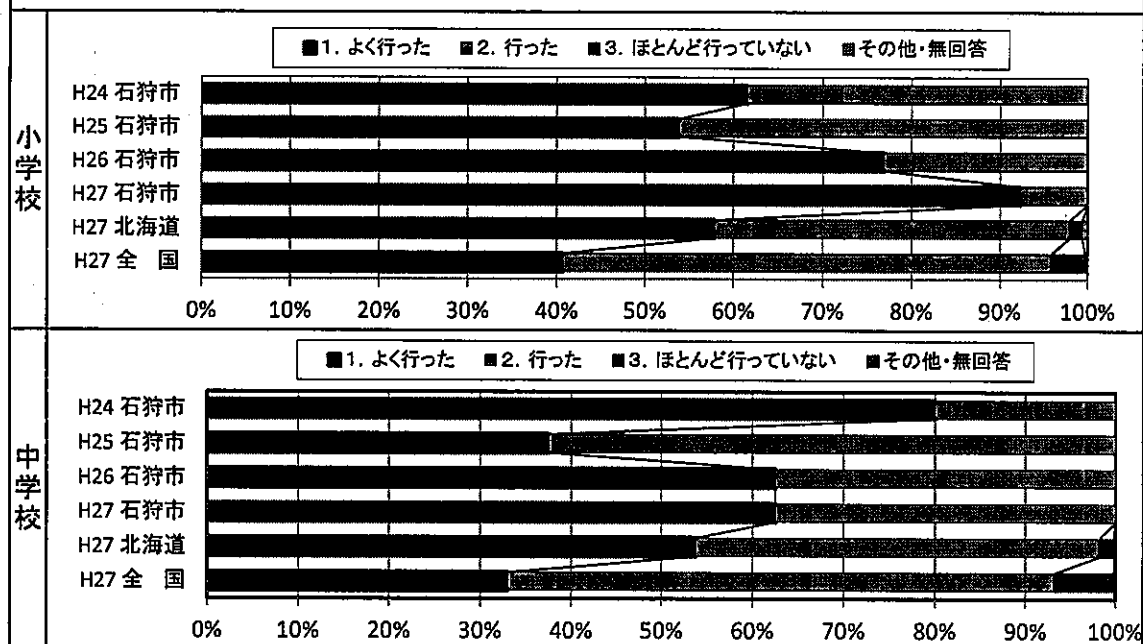
5. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)



全国学力・学習状況調査の結果を活用して改善

平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、「学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合は、小学校で92.3%(全国比+51.5ポイント、全道比+34.5ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+29.5ポイント、全道比+8.7ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に小学校の向上が大きく、教育指導の改善への意欲が伺えます。

6. 平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

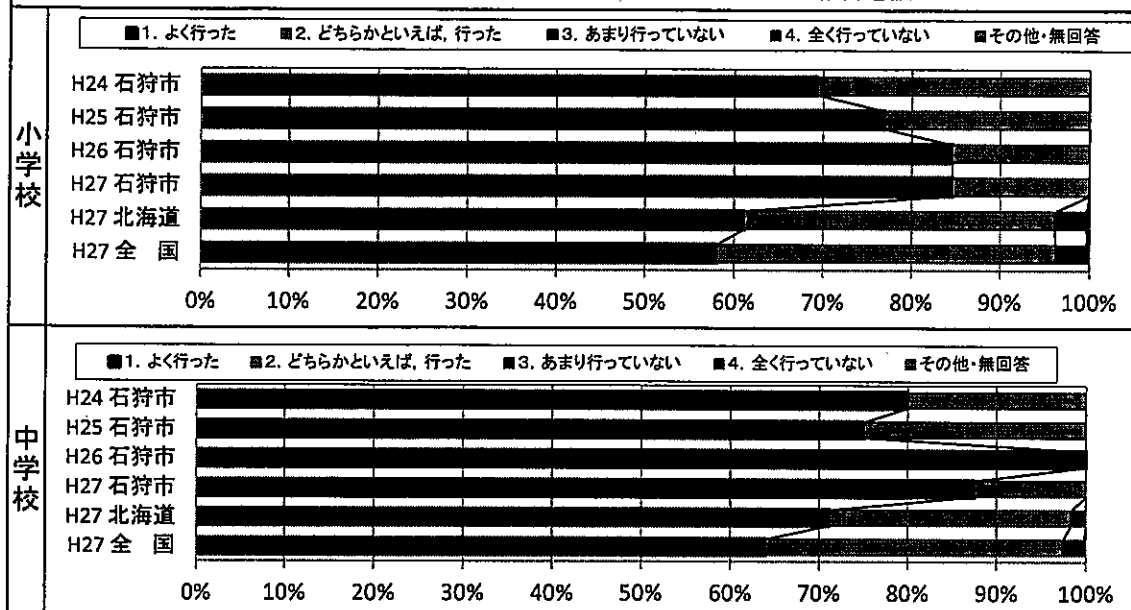


Ⅲ 指導方法・学習規律

学習規律維持の徹底は定着

「学習規律の維持を徹底した」割合は、小学校で84.6%(全国比+26.6ポイント、全道比+23.5ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+23.6ポイント、全道比+16.4ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、学習規律の定着していることが伺えます。

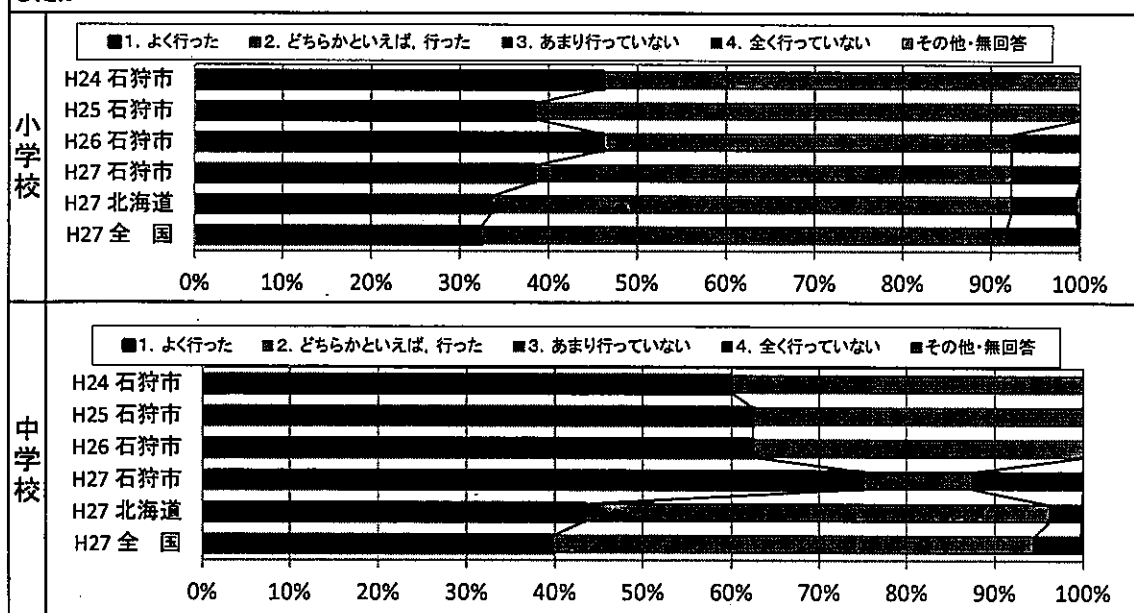
7. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



教科の特質に注目した指導の改善に成果

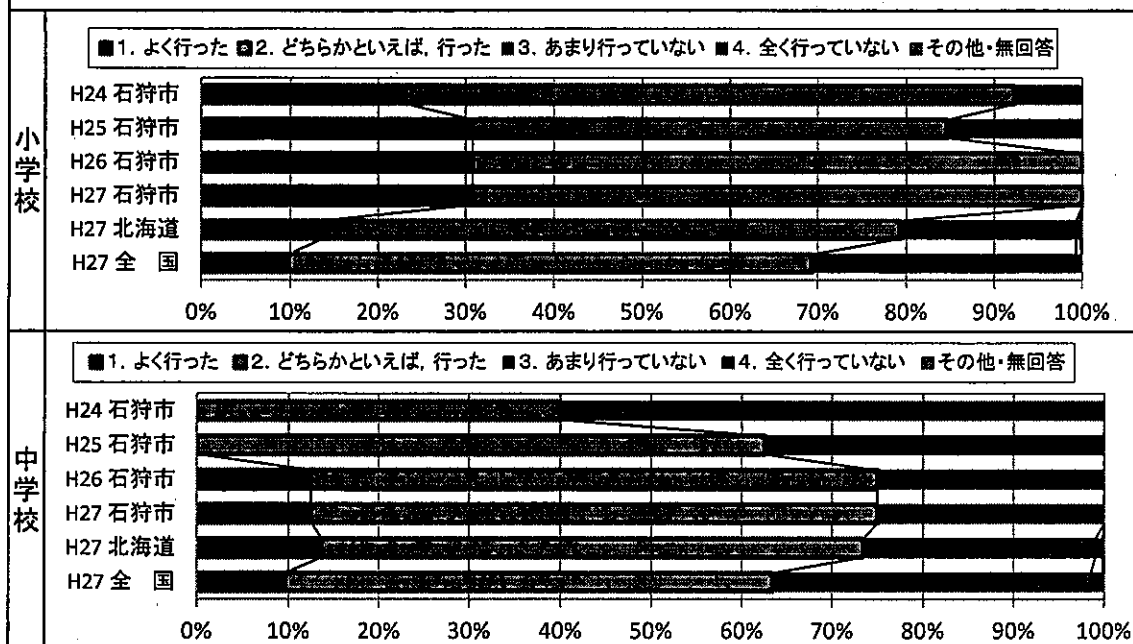
国語の指導として、「書く習慣を付ける授業をよく行った」割合は、小学校で38.5%(全国比+6.1ポイント、全道比+4.9ポイント)で、中学校では75.0%(全国比+35.2ポイント、全道比+31.6ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に中学校での指導・改善が伺えます。

8. 調査対象学年の児童・生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



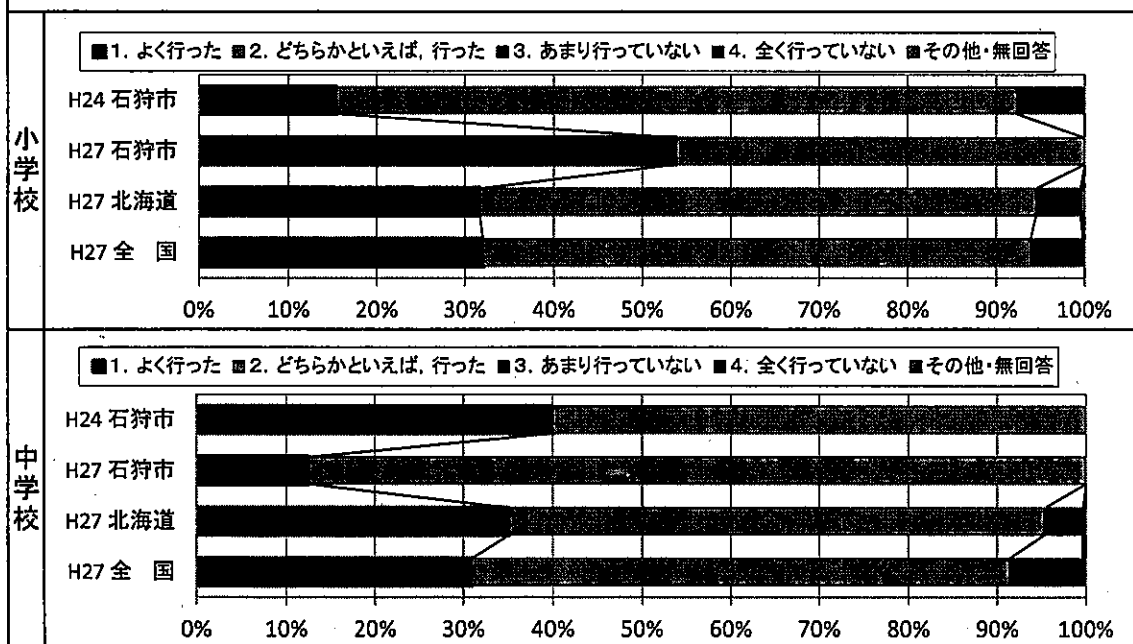
算数・数学の指導として、「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で30.8%(全国比+21.0ポイント、全道比+17.1ポイント)で、中学校では12.5%(全国比+2.9ポイント、全道比-1.2ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、意識した取組が伺えます。

9. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



理科の指導として、「観察や実験の結果を整理し考察(分析し解釈)する指導をよく行った」割合は、小学校で53.8%(全国+21.8ポイント、全道比+22.1ポイント)で、中学校では12.5%(全国比-18.4ポイント、全道比-22.6ポイント)でした。特に小学校での指導・改善が伺えます。

10. 調査対象学年の児童・生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察(分析し解釈)する指導を行いましたか

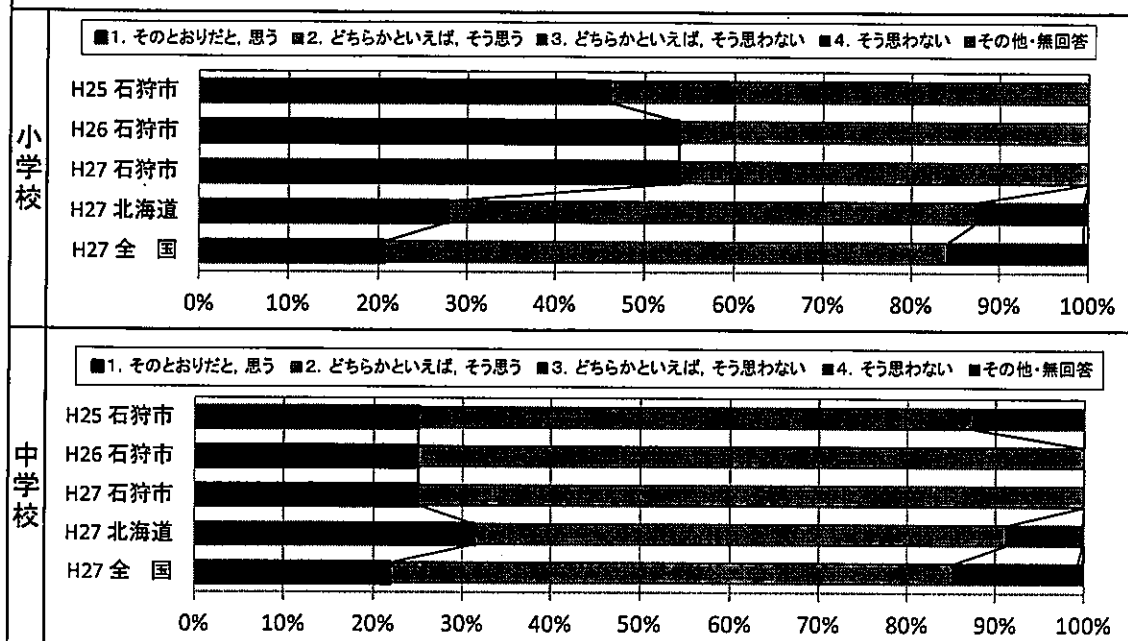


IV 言語活動

言語活動を取り入れる授業が定着

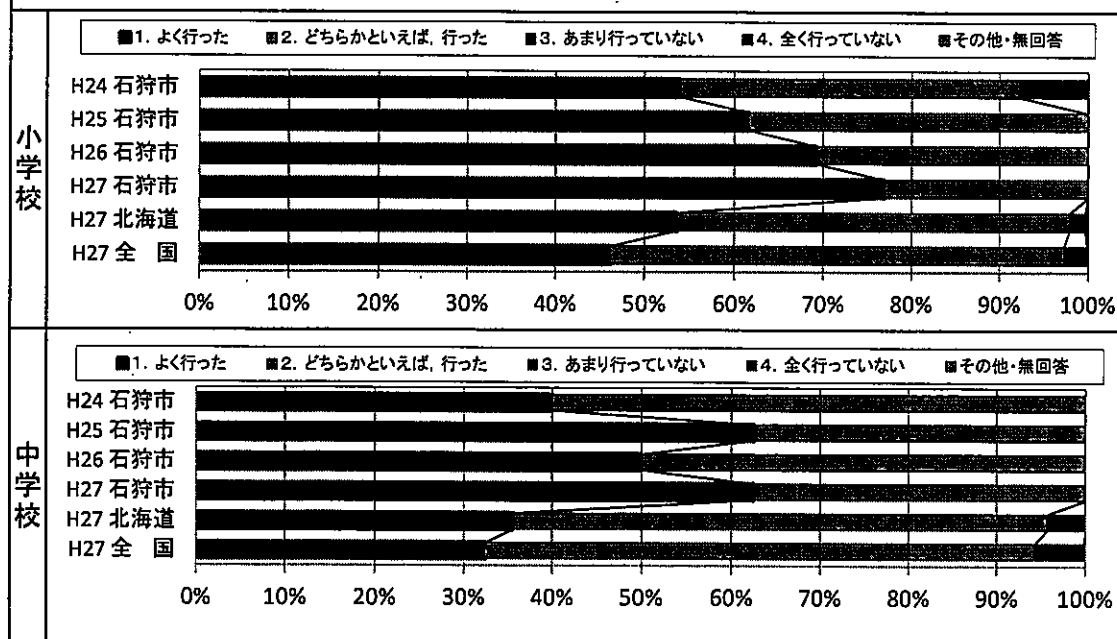
学級やグループでの話し合いなどの活動で、「相手の考えを最後まで聞くことができている・どちらかといえばできている」割合は、小学校で100.0%(全国比+16.0ポイント、全道比+12.7ポイント)で、中学校では100.0%(全国比+14.8ポイント、全道比+8.7ポイント)でした。小・中学校で、話し合い活動の積極的な取組が伺えます。

11. 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか



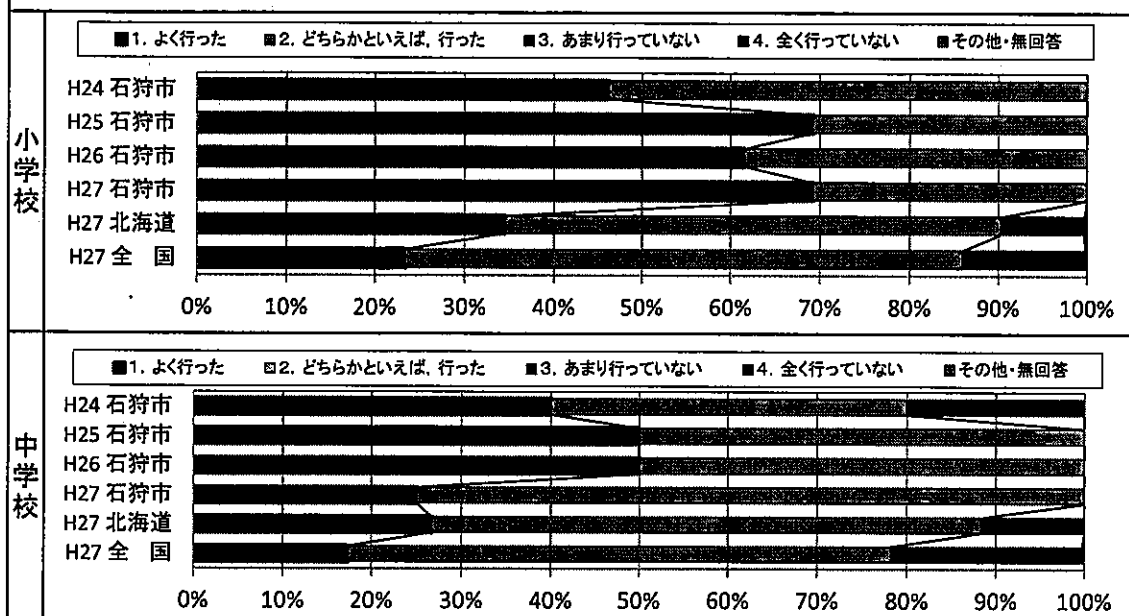
「発言や活動の時間を確保して授業を進めた・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+2.7ポイント、全道比+2.1ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+6.2ポイント、全道比+4.3ポイント)でした。全道・全国を上回り、積極的な取組が伺えます。

12. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



「資料を使って発表ができるよう指導した・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+24.1ポイント、全道比+9.6ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+21.9ポイント、全道比+ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、積極的な取組が伺えます。

13. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

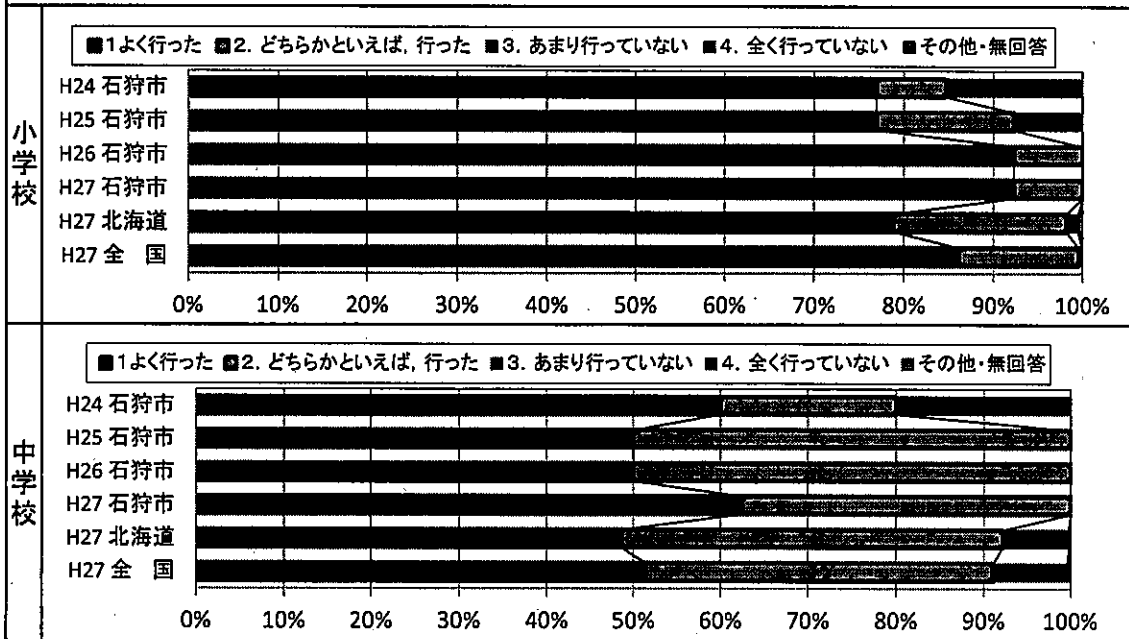


V 家庭学習・家庭との連携

家庭学習における認識が高まり、家庭との連携も定着

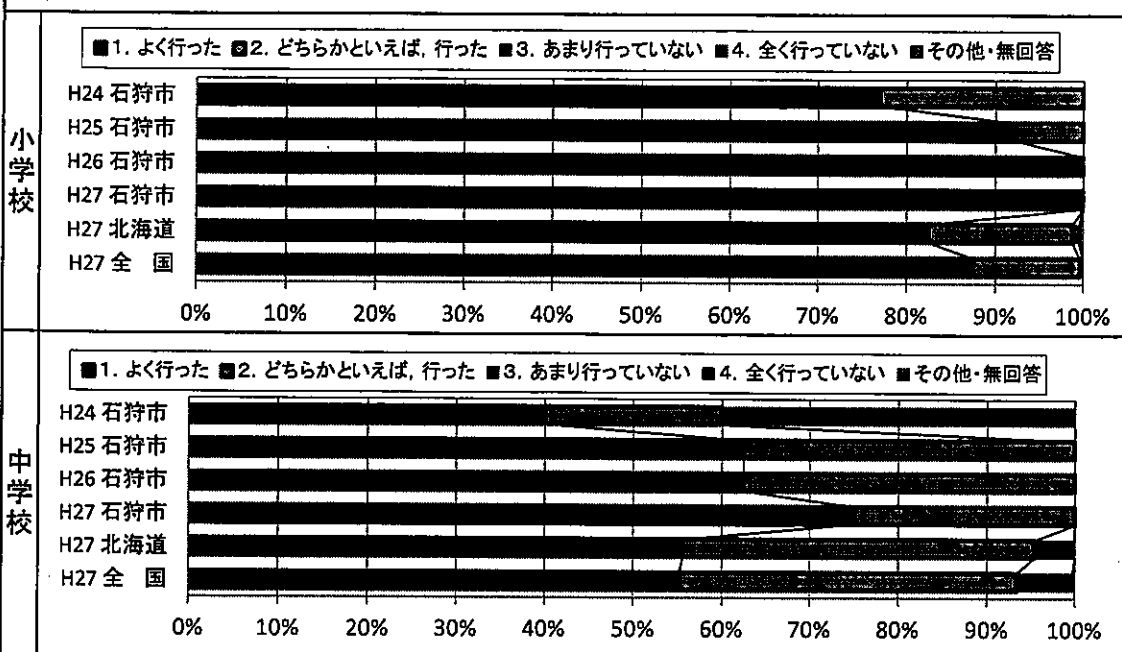
国語の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で92.3%(全国比+6.2ポイント、全道比+13.5ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+11.1ポイント、全道比+14.0ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、家庭学習の定着・強化していることが伺えます。

14. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



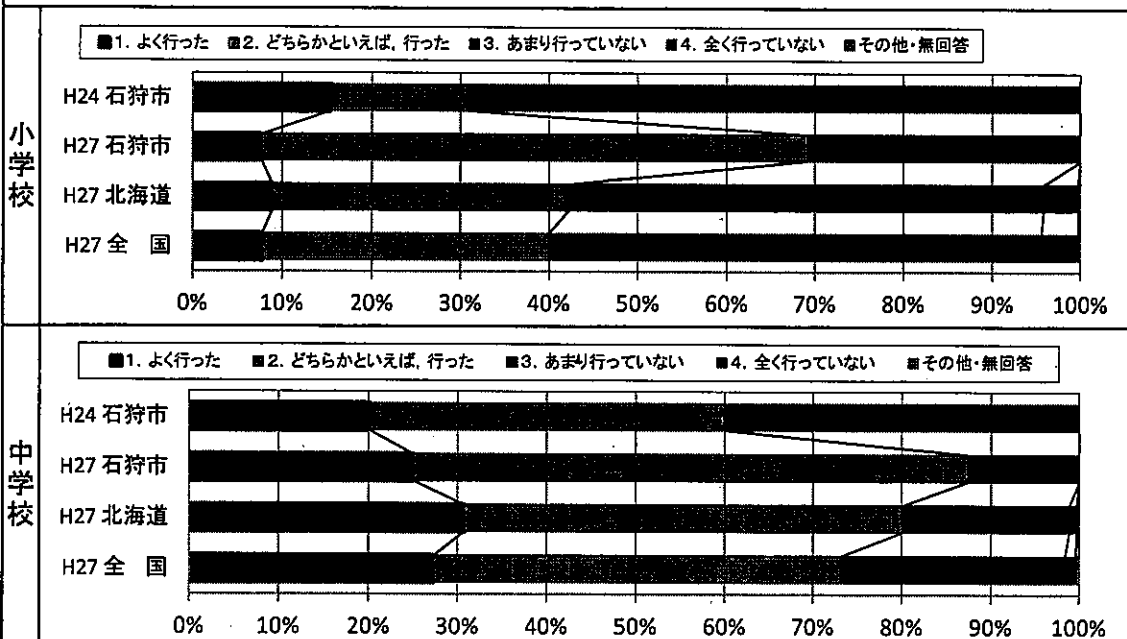
算数・数学の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100.0%(全国比+12.5ポイント、全道比+17.6ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+19.8ポイント、全道比+19.4ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に小学校での取組の定着が伺えます。

15. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



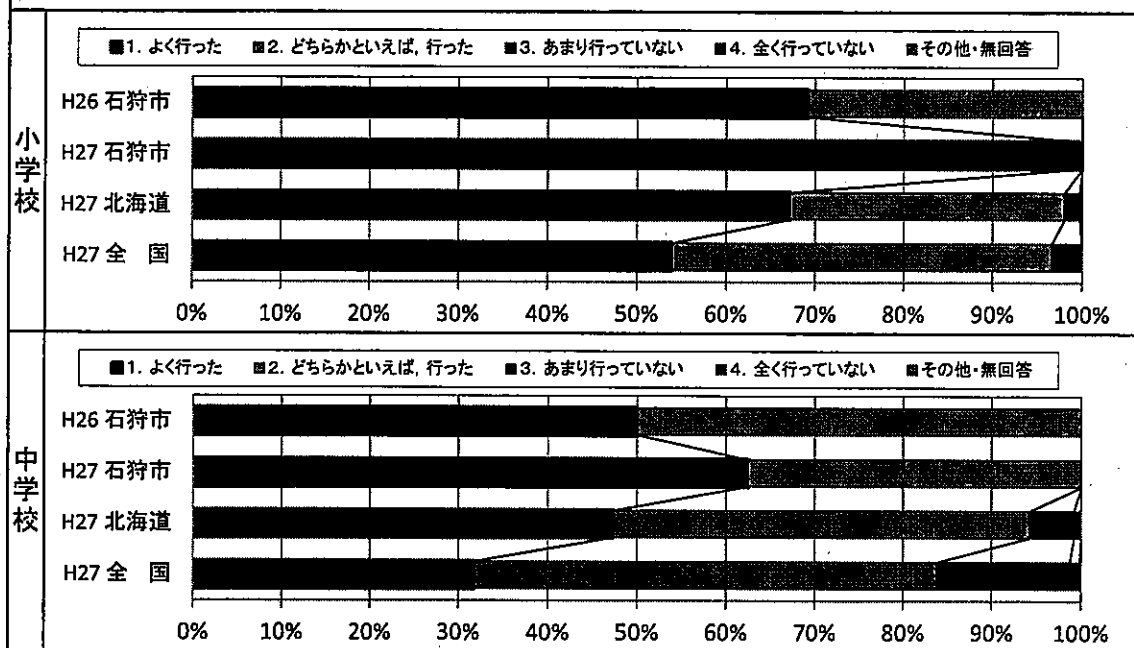
理科の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で7.7%(全国比-0.1ポイント、全道比-1.2ポイント)で、中学校では、25.0%(全国比-2.3ポイント、全道比-5.7ポイント)でした。「どちらかといえば、行った」を加えると、全道・全国平均より高い傾向にあります。

16. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



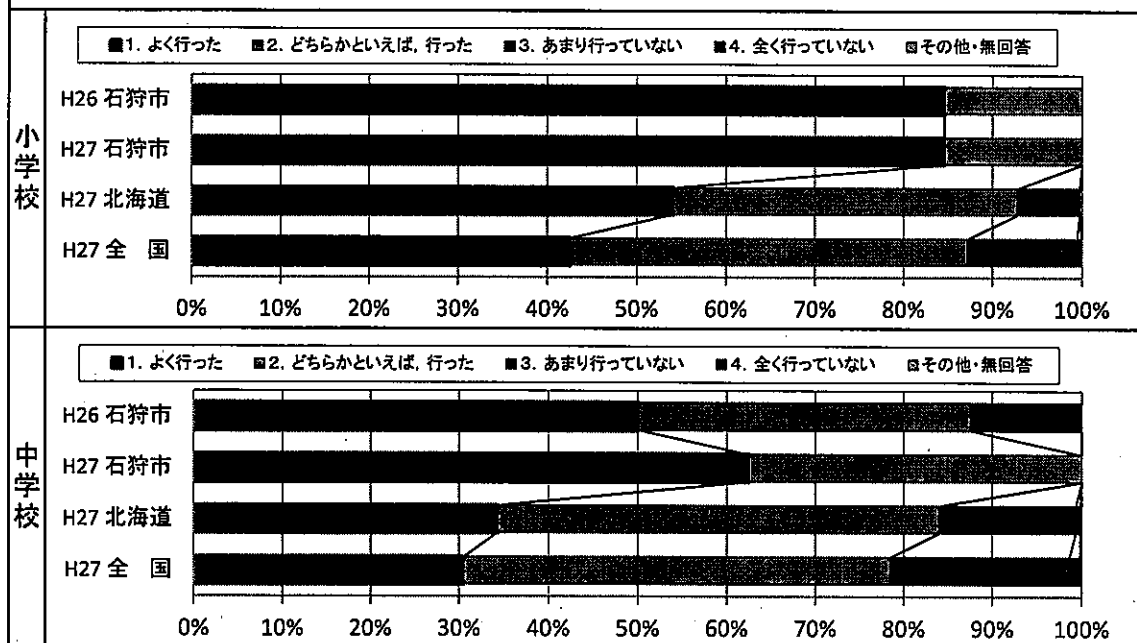
「児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけをよく行った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で100.0%(全国比+46.2ポイント、全道比+32.8ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+30.8ポイント、全道比+15.1ポイント)でした。全道・全国より高く、小学校で100%であり、保護者に家庭学習を促す取組が向上しています。

17. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)



「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をよく図った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で84.6%(全国比+42.2ポイント、全道比+30.6ポイント)で、中学校では62.5%(全国比+32.0ポイント、全道比+28.2ポイント)でした。全道・全国より高く、家庭学習に対する教職員の共通理解が図られていることが伺えます。

18. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語／算数・数学共通)

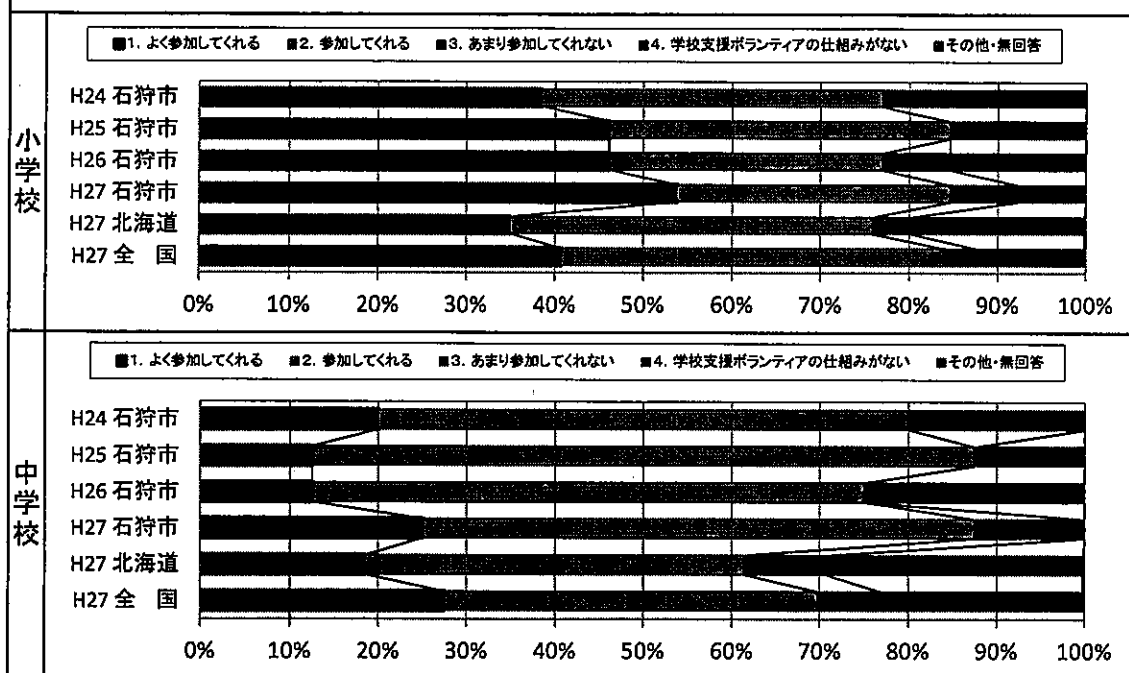


VI 地域・学校間連携

地域・小中間の連携教育の定着

学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、「保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる」は、小学校で84.6%(全国比+0.5ポイント、全道比+8.7ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+17.8ポイント、全道比+26.1ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より地域との連携が図られていることが伺えます。

19. 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか



教科の指導内容や指導方法について「近隣の小・中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行った・どちらかといえば行った」割合は、小学生で100.0%(全国比+33.3ポイント、全道比+36.3ポイント)で、中学生では100.0%(全国比+24.5ポイント、全道比+24.1ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より小中の連携が図られていることが伺えます。

20. 教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか

